

画 情 義 翻

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

面

計

義

講

科 目 名			
国際社会福祉論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

国際社会が直面する福祉課題を理解するとともに、国際社会福祉の視点から日本の現状を考える。また、国際的なボランティア活動に関わるための基礎知識を身につけ、国際福祉に一人一人がどのように貢献できるかを検討する。
特に、インド・コルカタ題材にして、上記テーマに取り組む。
Web上のデータを読み取るための基礎的な英語力が要求される。

【講義計画】

学生はグループに別れ、コルカタにおける特定の福祉領域（貧困、児童、高齢者、失業、ホームレス、医療、保険、難民、飢餓、災害など）について、研究報告をする。
授業は学生の研究報告によって進められる。

【成績評価の方法】

グループ研究報告とそのレポート。

【教科書】

授業はじめに指示する。
インターネットによる情報収集。

【備考】

<02～04生>
共通自由科目として、SW生対象外

科 目 名			
国際政治史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	鈴 木 博 信

【講義概要・学習目標】

共通の敵ナチ・ドイツがたおれると（第二次大戦の終了）、米ソ両大国のあいだで宣戦布告もなくはじまり、ソ連の崩壊をもって終わった「冷戦史」、そのあらましを中心に「20世紀後半の国際政治史」の主要事件を論じる。ブッシュのアメリカが主導する冷戦後の「新世界」をつねに視野に入れながら。

【講義計画】

1. 世界大戦から冷戦へ
2. 共産中国とアジアにおける冷戦
3. 「平和共存」と核対決ー核爆弾の影のもとに
4. ヴェトナムとアフガニスタン
5. 米ソと共産中国：1949～80
6. 緊張緩和の進行と停滞
7. レーガン、ゴルバチョフ、冷戦のおわり
8. 冷戦後の「新世界」

【成績評価の方法】

1. 年度末試験またはリポート
2. 必要に応じて課す小レポート

【教科書】

とくはないが、
参考文献にあげた「冷戦史」関係の書物やそこに紹介されている文献を中心に、出来るだけ目をとおしていただきたい。

【参考文献】

- 高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫
- 松岡完ほか「冷戦史」同文館出版
- 仲 晃「パソクス・アメリカーナの転回」岩波書店
- 森本良男「冷戦ー人と事件」サイマル出版会
- アダム・ウラム「膨張と共存ーソヴェト外交史」同上
- チャルマーズ・ジョンソン「アメリカ帝国の悲劇」文芸春秋社

【備考】

<02・03生>
共通自由科目として、J生は対象外

科 目 名			
国際政治事情研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、右の「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。これにより、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。

ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。したがって、国際関係論や政治学のコースを履修したことがない者でもかなり理解できるような教授法となる。(私の「国際関係論」も是非チャレンジすることを強く進める。)

【講義計画】

1. 総論
 - 1) 国際関係論と地域研究
 - 2) システム論的アプローチ
 - 3) 比較研究アプローチの危機 … 「理論の島々」
2. 各論
 - 1) 民族紛争
 - 2) 国際テロ・アフガン問題
 - 3) 東アジア
 - (1) 朝鮮民主主義人民共和国
 - (2) 中華人民共和国
 - (3) 日本
3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究

【成績評価の方法】

Aを目指す学生 … 講師の指示に従い研究レポートを作成
B・Cを目指す学生 … 通常の学年末試験を受ける
出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

【教科書】

購入の必要はない。

【参考文献】

H・J・ウィーアルダ「比較政治の新動向」東信堂、1991。
G・アーモンド、B・パーウェル「比較政治」時潮社、1986。

【備考】

<02・03生>
共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
国際文化基礎研究－イタリア文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

この授業では、フィレンツェの歴史を軸とするルネサンス時代のイタリアの歴史とその文化について語りたい。ルネサンス文化の基盤となったイタリアのコムーネ（都市国家）やそこで生きていた人々の生活について、当時の文献なども参照しながら説明していくことにする。さらにイタリア・ルネサンスが行き詰まり、高い文化が没落していった過程もあわせて明らかにしておきたい。

【講義計画】

授業は合計で28回あるものと考えて全体を4分する。

1. まず中世イタリアの全体的状況と、コムーネという政治単位について考え、フィレンツェの後進性を明らかにする。
2. 遅れていたフィレンツェがいつごろから目覚め、文化的にイタリアをリードするにいったか、またその代表的存在であるダンテやボッカッチョの生涯と業績を紹介し、ルネサンスが生まれた過程をながめる。
3. メディチ家の支配下でその新しい文化や様式がいかにイタリア全体に普及したかを考察する。五大国の均衡による平和についても考える。
4. しかしイタリアの平和はあえなく崩壊して、イタリア戦争の中でイタリア人は苦しむが、その苦しみの成果についても概観しておきたい。

【成績評価の方法】

1. 出席を重視する。
2. レポートを1回提出してもらい、試験を1回行う。試験はあらかじめ予告した例題のうちから出す。

【教科書】

筑摩書房『マキアヴェッリ全集 補巻』に収められた、米山が作製した
フィレンツェ史年表をコピーして配布する。

【参考文献】

ニコロ・マキアヴェッリ著、在里・米山訳、フィレンツェ史（マキアヴェッリ全集 第三巻）筑摩書房
ジュリアーノ・プロカッチ著、斉藤・豊下訳、イタリア人民の歴史、未来社
藤澤道郎著、物語 イタリアの歴史Ⅰ・Ⅱ、中央公論新社

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
国際文化基礎研究－西南アジア文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	小 林 信 彦

【講義概要・学習目標】

『ギルガメシュ叙事詩』と『旧約聖書』を中心に、セム語圏の最古文化について学ぶ。

【講義計画】

『ギルガメシュ叙事詩』と『旧約聖書』から重要な部分を選んで、複写した日本語訳を配布し、指定した部分の要約を1週間に1度提出させる。

【成績評価の方法】

授業中の発言を特に評価する。
一つの課題を終えるごとに小試験を行い、折に触れて授業内容の要約を提出させる。

【教科書】

なし。

【参考文献】

矢島文夫（訳）：『ギルガメシュ叙事詩』
『旧約聖書』（新共同訳『聖書』）
教室で扱う資料はそのつど複写で配布するので、買わなくてよい。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
国際法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	軽 部 恵 子

【講義概要・学習目標】

国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。この講義では国際法の基礎を学びます。

国際法の履修には世界史の基礎的知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。国際法を履修する人は、国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。

国際法に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、ドキュメンタリー・フィルムや各種ホームページも教材として頻繁に使用します。

※ 履修登録する前に「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。

【講義計画】

1. 国際法とは何か：「国」と「国際」の意味、合意秩序 他
2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、2つの世界大戦 他
3. 国際法の基本原則：「合意は拘束する」 他
4. 国際法の法源：条約、慣習法、判例、強行規範
5. 国際法の主体：国家、国際機構、人民、個人
6. 国家：国家の要件、国家の基本的権利と義務、主権と管轄権、国家責任、外交的保護、国籍の意味、国家承認と政府承認、国家承継、外交使節、外交特権、領事
7. 領域：領域の得喪、海の国際法、空の国際法
8. 条約：条約案の交渉、署名、批准、加入、改正、終了、無効、留保、条約の承継 他
9. 国際紛争：紛争の平和的解決、武力紛争の規制、戦争の違法化、自衛権、大量破壊兵器、軍縮、安全保障 他

【成績評価の方法】

学期末試験（2006年1月）

※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くためで、いわゆる「出席点」にはなりません。

【教科書】

・『国際条約集2005』 有斐閣 2005年

【参考文献】

- ※ 国際機構論のページも見てください。
- ・国際法学会編 『国際関係法辞典』三省堂 1995年
 - ・横田洋三編 『国際法入門』 有斐閣 1997年
 - ・大沼保昭編 『資料で読み解く国際法』 第2版 全2巻 東信堂 2002年
 - ・松井芳郎『国際法から世界を見る』東信堂 第2版 2004年
 - ・青木裕司 『知識ゼロからの現代史入門』 幻冬舎 2002年
 - ・池上彰 『そうだったのか！現代史』 集英社 2000年
 - ・池上彰 『そうだったのか！現代史パート2』 集英社 2003年
 - ・門奈直樹 『現代の戦争報道』 岩波書店 2004年
 - ・久保田展弘 『荒野の宗教・緑の宗教：報復から共存へ』 P H P 研究所 2004年
 - ・国際地学協会『国旗と地図』国際地学協会 2004年
 - ・武光誠『世界地図から歴史を読む方法』 河出書房新社 2001年
 - ・舟本弘毅監修 『図説 地図とあらすじで読む聖書』 青春出版社 2004年

【備考】

<02・03生>

共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
コスト・マネジメント (旧原価計算論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	小 林 哲 夫

【講義概要・学習目標】

製品原価計算の基礎的な概念や手続について学習する。基礎的概念を通じて原価計算システムの基本構造を理解するとともに、計算演習に多くの時間をかけて、計算能力を身につけるようにする。

【講義計画】

おおむね次の順序で講義を行う。

- (1) 原価の基礎概念
- (2) 原価計算システム（原価計算制度）の役割
- (3) 実際総合（全部）原価計算の基本手続
- (4) 直接原価計算の意義と手続
- (5) 個別原価計算の手続
- (6) 部門別原価計算の手続
- (7) 標準原価計算の意義と手続

【成績評価の方法】

期末テストも行うが、常時の計算演習の参加を重視する。

【教科書】

授業中に資料を配付する。

【参考文献】

小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社）

科 目 名			
コミュニケーション概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	遠 山 淳

【講義概要・学習目標】

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。先年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。イラク戦争もまた同様であった。氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報化、人間か。

【講義計画】

1. 言語の獲得と発達過程
2. 言語的コミュニケーション（1）：言語と思考様式
3. 認知科学としてのコミュニケーション
4. 言語的コミュニケーション（2）：言語と意味
5. 動物のコミュニケーション
6. ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7. メッセージとは何か：解剖とルール
8. 広告のコミュニケーション
9. 「うわさ話」について
10. 説得の技術
11. テレビ・ゲームのコミュニケーション
12. 異文化コミュニケーション

【成績評価の方法】

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

【教科書】

橋元 良明編著『コミュニケーション学への招待』大修館書店、1997

【参考文献】

授業中に紹介する。

科 目 名			
コンピュータ会計 (旧会計学特講ーコンピュータ会計)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	安 井 一 浩
02	春学期	2	

【講義概要・学習目標】

経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習しますが、現実の会社経理には欠かせない消費税等の課税かどうかの判断、ソフト設定を含めて説明します。
また日常的な経理実務に加え表計算ソフトの利用、基本的な原価計算手続、決算整理事項、法人税の処理、財務諸表の作成などやや高度な実務が出来るようになることを目標とします。
なおこの講義は春学期のコンピュータ会計を履修したこと及び日本商工会議所簿記検定2級の内容を理解していることを前提とします。

【講義計画】

経理用パソコンソフトによる消費税等の処理を含む日常業務に必要な知識を説明したあと、表計算ソフトの活用方法を説明します。続いて各種税金の処理及び決算特有の処理、決算書の作成に関する事項を説明します。なお講義は例題中心に進める予定です。

【成績評価の方法】

出席回数、講義中の態度及び考査を総合的に考慮して評価します。

【教科書】

特に使用しない。

【参考文献】

特になし。

か
行

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ
01	北條 仁志	71371	157	15	松本 慎平	32374	159	29	水口 薫	43374	160
02	岩田 賢造	41374	157	16	松本 慎平	31375	159	30	水口 薫	23373	160
03	岩田 賢造	42373	157	17	松本 慎平	32375	159	31	水口 薫	43375	160
04	岩田 賢造	41375	157	18	出澤 茂	41376	160	32	初瀬 慎一	12372	161
05	岩田 賢造	42374	157	19	出澤 茂	42375	160	33	初瀬 慎一	13373	161
06	田村 昶三	21371	158	20	出澤 茂	43372	160	34	初瀬 慎一	32376	161
07	田村 昶三	22371	158	21	出澤 茂	41377	160	35	初瀬 慎一	33374	161
08	田村 昶三	21372	158	22	出澤 茂	42376	160	36	初瀬 慎一	12373	161
09	田村 昶三	22372	158	23	出澤 茂	43373	160	37	初瀬 慎一	13374	161
10	崔 宇	31372	158	24	水口 薫	21373	160	38	初瀬 慎一	32377	161
11	崔 宇	32372	158	25	水口 薫	22373	160	39	初瀬 慎一	33375	161
12	崔 宇	31373	158	26	水口 薫	23372	160	40	初瀬 慎一	31376	161
13	崔 宇	32373	158	27	水口 薫	41378	160				
14	松本 慎平	31374	159	28	水口 薫	42377	160				

※ 法学部生の対象クラスは、02～09 クラス

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	2	北 條 仁 志

【講義概要・学習目標】

コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成、数値計算等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増え、コンピュータの簡単な操作方法を理解することが必要不可欠な時代となった。

本講義では、パソコンの利用経験が少ない初心者を対象として、コンピュータの基礎的概念およびその操作方法について学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用するための知識およびスキルを習得することを目標とする。

【講義計画】

以下の項目について講義・実習を行う。

1. コンピュータの基礎的概念
2. パソコンの操作方法
3. インターネット（電子メール、WWW）の活用
4. コンピュータリテラシー
5. ワープロによる文書作成
6. 表計算ソフトの基本的操作
7. プレゼンテーションソフトの基本的操作

【成績評価の方法】

講義時の課題および出席状況により総合的に評価する。

【教科書】

桃山学院大学情報センター編 『ユーザーズガイド』

【参考文献】

よくわかるマスター IC3対策テキスト
富士通オフィス機器株式会社／著作制作、FOM出版

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2	岩 田 賢 造
03	春学期	2	
04	秋学期	2	
05	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

コンピュータがグローバルにネットワークで結ばれ、官公庁・企業・学校から家庭まで広く利用される現代では、コンピュータのシステムダウンは、社会生活に多大な影響をもたらします。また、コンピュータを上手に利用できる人とそうでない人の情報格差は、想像以上に大きいものです。

講義では、学校生活で必要となるコンピュータ利用の基本を習得していただくとともに、レポート作成や発表に役立つインターネット、電子メール、Word、Excel、PowerPointの基本を説明し、パソコンを使って実際に情報の収集や文書・グラフの作成を実習していただきます。

また、授業の始めに、ITや経済・社会の動向・ニュースなどについて話をいたします。

尚、この講義は、パソコン初心者を対象にします。

【講義計画】

1. パソコンの構成とWindowsの基本操作
2. キーボード基本操作、文字入力・文字変換の基礎
3. インターネットの基本操作と検索エンジンの利用方法
4. 電子メールの基本操作と守るべきネチケットとセキュリティ
5. Wordの基本操作と文章作成演習
6. Excelの基本操作と表計算演習
7. Excelのデータ加工とグラフ作成
8. PowerPointの基本操作とプレゼン資料の作成演習

【成績評価の方法】

出席を重視します。講義回数の60%以上の出席と数回の課題作成提出による総合評価を行います。キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

【教科書】

桃山学院大学計算機センター編集「ユーザーズガイド」とプリント配布

【参考文献】

大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康著 講談社現代新書

同 上 「インターネット完全活用編」 同 上

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	春学期	2	田 村 昶 三
07	春学期	2	
08	秋学期	2	
09	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

e ビジネスが主流になってきました。しかし、コンピュータを習熟するには、それなりの時間とエネルギーがかかります。それを効率的に勉強するにはツボを押さえた学習方法があります。大学生活に必要な情報処理の入門です。

パソコン基礎を習得を目的とする「基礎の基本」を勉強します。パソコンを道具として使いきるための初心者向きの講義です。情報処理は大まかに(1)情報収集－(2)情報整理－(3)情報伝達－(4)情報保管・蓄積－(5)情報検索のフェーズに分かれます。この中で(2)－(4)までをコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習しながら勉強します。

パソコン基本操作から始めますが、パソコン・リタラシー習得を授業の中心にします。ビジネスで文書やドキュメントを中心に日本商工会議所パソコン検定試験(ワープロ・表計算)合格水準を目標に技能習得します。

コミュニケーション能力の増進を目的にします。

【講義計画】

1. Windowsの起動と終了。書式設定と印刷の仕方。
2. パソコンの基本操作(キータッチとマウス)
*キータッチがパソコンのスタートです。
3. ワードプロソフト(文字入力、文書作成編集、美しい文書表現)
*ワードプロ入力のスピードアップ。講義が終わるときに「手書きより速く入力できるようにする」を目標。
4. EXCEL(データとグラフ)(データ入力、表の作り方、グラフ作成)
*表計算(EXCEL)の基本的な使い方が分かり基礎的な使い方はこなせる。
「統合」の概念を理解する。、「関数」が使えるようになる。
5. POWER POINTの使い方 *論理の進めかたと表現の習得
6. インターネットの利用(WWW、電子メール、メールマガジン、)
7. 正しい電子メールの送り方を習得する。実際にメール交換をする。
8. 情報保管蓄積、情報検索、データベースを理解する。
*インターネットによる情報収集の限界と情報検索の重要性を理解する。
9. 情報技術(IT)の活用するには、何をすべきか。
10. ビジネス文書の基本を知る。初歩的ビジネス文書の作り方を実践する。

【成績評価の方法】

出席が3分の2以上。
授業開始後に毎週入力練習課題(10分間)の提出
授業終了後の理解度課題を提出。
学期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

教材は、毎週プリントで配布する。

【参考文献】

桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	春学期	2	崔 宇
11	春学期	2	
12	秋学期	2	
13	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

コンピュータは現代社会において重要な情報処理の道具として使われている。この講義では基本的な情報処理能力が必要とするコンピュータの基礎知識や操作方法の習得を学習目的とする。

1. コンピュータの基本構造やハードウェア、ソフトウェアなどコンピュータに関する基礎的な知識を身につける。
2. ワードプロ(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)などのアプリケーションソフトの使い方を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。
3. 電子メールやインターネットの利用法を習得する。

【講義計画】

1. コンピュータの基礎知識
2. Wordの操作: 文書の作成、編集
3. Excelの操作: 効率のよい表の作成、数式と関数、グラフ機能
4. PowerPointの操作: プレゼンテーション資料の作成
5. インターネットの仕組みとその活用
6. 電子メールの利用

【成績評価の方法】

出席、レポート、講義時の課題により総合的に評価する。

【教科書】

開講時に指定する。

【参考文献】

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	春学期	2	松 本 慎 平
15	春学期	2	
16	秋学期	2	
17	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】 現代の日常生活ではコンピュータの利用は必要不可欠であり、コンピュータの基本操作や情報処理の基本的考え方を正しく理解することが求められる。とりわけ、大学においては課題や実験データの整理を行うため、パーソナルコンピュータを使うことは当然であり、さらに社会では、インターネットや電子メール等の手段での情報のやりとり、意思決定のために様々な状況に応じて的確な情報を瞬時に検索することができる能力が求められる。そこで、コンピュータを利用していく上で最低限の知識となる「読み書きソロバン」に相当するコンピュータリテラシー能力を正しく習得することは非常に重要な課題となっている。 本講義ではコンピュータについて最低限必要な基礎知識を解説するとともに、実習によって自らの手で実践する事によって、講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータ利用技法を学ぶ。基本的なコンピュータの利用法の習得を目的とし、将来の職業人としての基礎的技術、マナーの習得の足掛かりになることを期待する。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指す。 【講義計画】 ＜到達目標＞ 1. コンピュータの基礎的概念を理解することができる。 2. ウィンドウズの基本操作ができる。 3. インターネットを使って情報検索ができる。 4. 電子メールを活用して情報のやりとりができる。 5. ワードによる文書の作成ができる。 6. 表計算の基本的操作を行う事ができる。 7. プレゼンテーションソフトの基本操作を資料作成を行う事ができる。 8. ホームページを作成する事ができる。 ＜授業内容＞ 01. ガイダンス。コンピュータの基礎概念の説明 02. ウィンドウズの基本操作の説明。 03. 半角文字練習、タイピング練習 04. 全角文字練習、MS-IMEの基本操作 05. ファイル操作 06. 電子メールの基本操作(受信, 送信, 返信など) 07. 電子メールの応用操作(アドレス帳, 添付, 転送設定など) 08. サーチエンジンを利用した情報検索 09. インターネットサービスの利用 10. HTML文書の作成 11. MS-Wordによる文書作成・基礎編 12. MS-Wordによる文書作成・応用編 13. MS-Excelを用いた表計算処理 14. MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションの作成 ＜お願い事＞ この授業は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者 of 学生を対象としているので、コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈なだけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。また、そうでなければ、本来受講すべき初心者の学生が受講できなかつたり、授業に経験者が入ることによって授業の進行が乱れたりする可能性があります。 【成績評価の方法】 平常点(出席及び授業態度)：7割 課題点(中間試験と期末試験)：3割	本演習は、本学で学ぶにあたり起点となる重要な科目である。毎回出席は原則であり必須である。遅刻(欠席扱いとする)や欠席のないように特に肝に命ずること。なお、やむを得ない理由で欠席する場合は、メール等で事前に連絡をしておけば、その回の欠席は十分に考慮することができる。ただし、欠席は自己責任であるため、欠席した回の学習内容は、次回の授業までに各自必ず自習しておかなければならない。演習は原則としてWebページで提供されるオンラインテキストによって進められる。演習中に提示される課題の達成度、提出状況を重視する。 【教科書】 桃山学院大学情報センター(編)「ユーザーズガイド」 【参考文献】 山本 喜一(著)、やさしいコンピュータ入門、岩波ジュニア新書(371)新書、岩波書店(2001/06)。 坂村 健(著)、痛快!コンピュータ学、集英社文庫、集英社(2002/03)。 山田 宏尚(著)、図解雑学 コンピュータのしくみ、図解雑学シリーズ 単行本、ナツメ社(2002/06)。 小関 祐二(著)、学生のためのコンピュータリテラシーとインターネット、単行本、共立出版(1999/10)。 【備考】 J生対象外
---	---

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
18	春学期	2	出 澤 茂
19	春学期	2	
20	春学期	2	
21	秋学期	2	
22	秋学期	2	
23	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

Word processor“MS-Word”利用 及び Spread seet（表計算ソフト）“MS-Excel”利用について、「基本」と「基本を理解するために有効な基礎」を学習する。

【授業担当者が留意する事項】

1. 課題や目的に対処する過程の中で「情報を獲得し知識を構築し意思 の疎通を図る」ための用具（tool）として扱う。
2. 情報や技能を構造化し、知識として定着できるように努める。
3. 語源を示すなど、術語のもつイメージを形成するように努める。

【講義計画】

1. MS-Wordを利用する文書作成
2. MS-Excelを利用する計算・表作成・グラフ作成・シミュレーション
3. 同一ソフト間や異なるソフト間におけるデータの連係

【成績評価の方法】

課題完成度 及び 授業参加状況に基づく

【教科書】

桃山学院大学情報センター（2005）. ユーザーズ ガイド2005. 桃山学院大学

【参考文献】

相沢祐介, 中山一弘, 石原裕（2004）. パソコンははじめの一步：XP版 Office. カットシステム

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
24	春学期	2	水 口 薫
25	春学期	2	
26	春学期	2	
27	春学期	2	
28	春学期	2	
29	春学期	2	
30	秋学期	2	
31	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会は、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。

本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。

講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりしたペースでの反復学習を行う。

【講義計画】

1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要
2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習
3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）
4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）
5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）
6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）
7. コンピュータの可能性について

【成績評価の方法】

講義時の課題、レポート、出席により総合評価

【教科書】

「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」
桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
32	春学期	2	初 瀬 慎 一
33	春学期	2	
34	春学期	2	
35	春学期	2	
36	秋学期	2	
37	秋学期	2	
38	秋学期	2	
39	秋学期	2	
40	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおける必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

【講義計画】

1. パーソナルコンピュータの概要
2. コンピュータの基本操作
3. インターネットの活用とセキュリティ
4. 電子メールとネットケット
5. オフィスツール（表計算、ワープロ、プレゼンテーション）の活用
6. その他の情報活用法

【成績評価の方法】

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。

コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

- ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。
- ・情報センターの施設を用いた実習が主体となる。
- ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータにある程度慣れていないとハードな講義となる。
- ・少なくない自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。
- ・基本的には連絡は電子メールで行う。

【講義計画】

- ・ホームページを作ってみる。
- ・プレゼンテーション・ソフト
- ・情報検索の基礎
- ・unixの基礎
- ・オブジェクト指向とJava

【成績評価の方法】

実習の提出物を中心に総合的に評価する。

【教科書】

改訂新版 初体験Java 丸の内とら著 技術評論社

【参考文献】

ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ

10日でおぼえるJava入門教室、丸の内とら著、翔泳社
その他は進行状況に応じて指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
財政学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	竹 原 憲 雄

【講義概要・学習目標】

いま日本の財政が注目されている。
先進国のなかで、日本の財政赤字は最悪の状態にある。そのために所得税・消費税等の増税が準備されている。

同時に、高齢化社会に向けた福祉や年金、景気対策のための公共投資など財政の多様な機能が求められている。また地方分権や財政の国際化にも直面している。これは現代財政に共通するところであるが、それによって日本の財政は、私達の日常生活や民間の経済活動にいつそう深い関わりをもつようになっている。

もっとも、こうした日本の財政が、単なる関心の対象に終わってしまうならば、その正体はわからない。財政のしくみや経済活動との関係などについて、順序だてて考えてみる必要がある。

そのうえで、2005年度予算を手がかりにしながら、現在の財政がかかえる問題、国民生活への影響、そしてのぞましい姿など日本財政の実体に向かってみようというのが、この講義のねらいである。

財政という窓からもう一度世の中を見つめ直して、これからの21世紀を展望してもらいたい。

【講義計画】

1. 2005年度予算の内容と問題点
2. 現代財政の理論と機能
3. 日本財政の経費構造と主要経費の実態
4. 税金の意義としくみ
5. 国債の現状と課題
6. 財政投融资の機能と新たな展開

【成績評価の方法】

講義内容に関するレポートと期末の試験によって総合評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義の中で紹介する。

科 目 名			
財務諸表論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	チョン 全 ジェ 在 ムン 紋

【講義概要・学習目標】

講義概要：企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われる。

学習目標：① 1年次における商業簿記の学習内容を前提にして、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表のポイントを理解する。
② 「企業の言語」としての〈会計〉の特性を理解する。

【講義計画】

- ① 制度会計論
- ② 貸借対照表論
- ③ 損益計算書論
- ④ キャッシュ・フロー計算書論
- ⑤ 安全性分析
- ⑥ 収益性分析
- ⑦ 成長性分析
- ⑧ 会計言語論
- ⑨ 国際会計論

【成績評価の方法】

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価する。また、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者には加点評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価する。

【教科書】

全在紋作成のオリジナル・テキスト配布(分売)の予定

【参考文献】

全在紋著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
産業考古学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	並 川 宏 彦

【講義概要・学習目標】

産業考古学は1951年に英国で生まれた新しい学問である。それは産業史や技術史、社会・経済史、地方史など周辺学問との学際的研究で展開され、文献研究だけではなく、産業遺跡・遺物そのものの調査・研究を重視し、その文化財としての保存・記録を進める。

わが国が欧米の近代技術の導入を通じて産業の近代化にふみ出してから一世紀余りが経ち、この間の産業技術の発達はめざましいものがある。この過程で、当然のことながら生産品の変遷が進み、消えていった品々も多い。

歴史的、技術的、文化的価値のある工場や生産設備、機械器具、製品、図面、文書類など、それぞれの時代を担い、産業技術の発展に貢献した貴重な遺産である産業資料の収集・保存は重要な課題である。

産業考古学がどのような学問か、調査研究の対象と方法、産業遺跡・遺産保存の基準、日本の産業技術の発達などとともに、産業博物館について講義する。

【講義計画】

産業考古学の定義、調査研究の対象と方法、日本の産業考古学、遺跡や遺物の体系的保存、体系的保存のための基準、日本の産業技術の発達、産業考古学と保存運動、企業と産業遺跡・遺物の保存、文化財としての産業遺跡・遺物、日本の産業遺跡・遺物（エネルギー生産の跡、金銀銅や鉄などの金属材料生産の跡、石炭生産の跡など）、日本の近代産業の発達と産業技術史博物館（繊維機械および自動車とその生産技術の展示）、イギリスの産業遺跡・遺産とその保存状態、イギリスにあって日本では多くが失われた物、そして近畿の産業博物館（近畿地域の主な産業博物館を取り上げ、その産業や技術の歴史の概要と博物館の展示内容や特徴）を述べる。

【成績評価の方法】

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

【参考文献】

産業記念物調査研究会 「近畿の産業博物館」 阿吽社

科 目 名			
産業構造論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

現代日本産業の当面する諸問題について、各産業分野で活躍されている第一線のエコノミストに最新の資料(情報)にもとづく講義をしていただきます。

【講義計画】

2004年度 講義内容（2005年度には、一部変更される可能性があります。）

- ・オリエンテーション
- ・総論
- ・グローバル化の進展と産業構造の変化
- ・情報化の進展と産業構造の変化
- ・中小企業金融
- ・公設試験研究所の役割
- ・サブカルチャーから見た日本の産業構造の変化
- ・ホテル業
- ・コンサルタント・シンクタンク業務について
- ・公共交通
- ・生鮮食品
- ・知的財産権
- ・外食産業
- ・繊維産業
- ・自動車産業
- ・貿易
- ・エネルギー産業
- ・公害と市民生活
- ・情報産業
- ・エレクトロニクス産業
- ・金型産業

【成績評価の方法】

1年を4期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合して評価する。

【教科書】

指定しない。

【参考文献】

その都度指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
産業社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	上 田 修

【講義概要・学習目標】

「失われた10年」という言葉に象徴されるように、わが国は長期にわたる経済不況に喘ぎ、そこからの脱出の展望を描き得ない状態にある。この過程で、1980年代には国際的に高く評価されていた日本企業の経営システムも金融関連作業を中心として批判を浴び、グローバルスタンダードのかけ声とともに、改革の対象とされている。しかし、戦後の歴史を振り返れば、日本企業の雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変化してきたことがわかる。

この授業は、以上の点を念頭におき、まず、産業社会学がこれまで対象としてきた領域について概観した上で、日本企業における雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、その歴史的変化について明らかにする。

【講義計画】

第1部 産業社会学の研究領域

- 1 産業社会学の課題と時代の束縛
- 2 企業・組織・モチベーション・リーダーシップ
- 3 労働疎外と労働生活の質的改善
- 4 階級と社会階層

第2部 日本企業をめぐる諸問題

- 1 概観－評価の変遷
- 2 制度と政策の歴史的展開
労務管理／人事管理／雇用管理／賃金
- 3 変わる労働世界
労働市場の変容と労働政策の転換／女性労働の増大／ホワイタカラーの労働と管理

【成績評価の方法】

学期末試験の成績で評価する

【教科書】

使用しない。ただし、各パートに入る時、講義内容の概略（レジュメ）を配布する。

【参考文献】

各講義概要（レジュメ）で指示する。

【備考】

<02～05生>

E・SW・B・L・L E・L I・J 生は、博物館学芸員科目（随意）として履修

科 目 名			
産業組織論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	田 中 悟

【講義概要・学習目標】

産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、産業の組織構造が経済に与える効果について考える。本講義では、ミクロ経済理論を応用することによって、産業の組織構造や企業間の相互依存関係がいかん企業に行動に影響を与え、これを通じて経済の成果（パフォーマンス）がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策（産業政策・規制政策・競争政策等）についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。

【講義計画】

講義はおおむね下記の章別構成にしたがって行う予定である。

- 序 産業組織論の対象と課題
- 第1章 企業の理論
- 第2章 競争と独占の経済理論
- 第3章 独占企業の行動
- 第4章 寡占市場の理論
- 第5章 参入・退出行動とその効果
- 第6章 イノベーションと産業組織
- 第7章 終章：公共政策（競争政策）の課題と内容

【成績評価の方法】

授業中に課す数回の小テストないしは宿題（30％）と定期試験の結果（70％）を総合して評価する。

【教科書】

特に指定しないが、以下の参考文献が有益である。

【参考文献】

1. 長岡貞男・平尾由紀子（1998）『産業組織の経済学』（日本評論社）
 2. 浅羽茂（2004）『経営戦略の経済学』（日本評論社）
 3. 小田切宏之（2000）『企業経済学』（東洋経済新報社）
 4. 植草益他編（2002）『現代産業組織論』（NTT出版）
 5. 後藤晃・鈴木興太郎（1999）『日本の競争政策』（東京大学出版会）
 6. Cabral, L. M. B. (2000), Introduction to Industrial Organization, MIT Press.
- なお、他の参考文献については、授業中に適宜指示する。

科 目 名			
自然科学－基礎数学 (旧経営基礎数学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	村 山 博

【講義概要・学習目標】

本講義では、社会に必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。
 文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい。
 高校までに学んだ数学の内容が、人によって大分違っているようである。このことを考慮し、受講者の理解度にあわせて、高等学校までの復習を行う。
 講義は、問題を解いてもらい、その後、解答を説明する方法を取る。

【講義計画】

以下の内容を講義する予定であるが、受講生の理解度により、講義の進捗や内容は多少変化する場合がある。

1. 高等学校までの数学の復習
2. N進数
3. 確率
4. その他（受講生の理解度による）

【成績評価の方法】

試験で評価する。

【教科書】

特に使用しない。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
自然科学－生物学 I (旧自然環境論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

宇宙は約130億年前に誕生し、地球は46億年前に誕生した。40億年ほど前に、この地球上で最初の生物が誕生し、500年前には原始的な人類も誕生した。私たち人類は、この宇宙の歴史の中で生まれ、やがて滅びていく。
 この授業では、まず、宇宙の歴史、地球の歴史、そして生物の歴史を概観し、ついで、遺伝の仕組みを理解し、なぜ地球生物が変化してきたのか、すなわち進化の要因について考えたい。

【講義計画】

おおむね以下のテーマを扱う予定である。

1. 宇宙の歴史
2. 生命の起源
3. 大量絶滅の謎
4. 陸生生物の出現
5. 脊椎動物の進化
6. サルからヒトへ
7. なぜ生物は進化するのか
8. ヒト・ゲノム計画

【成績評価の方法】

授業中の小テストと、期末試験との総合による。

【備考】

<02～05生>
 共通教養科目として、J 生対象外

科 目 名			
思想－アジア (旧アジア思想史)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	小 林 信 彦

【講義概要・学習目標】

人間は死んだ後でどうなるのか。インドと中国と日本では、それぞれ文化の違いを反映して、死後について考え方が非常に異なる。この問題を取っ掛かりに、三つの文化の違いを理解させる。

【講義計画】

まず儒教と仏教の大枠を説明した後で、仏教文献を取り上げる。インドで作られた仏教文献は中国で翻訳され、それが日本にも伝わったが、中国と日本ではそれぞれの文化を反映して本来の主旨とは違った理解がなされる。死についての考えに、このことは特に顕著に認められる。この点を手掛かりに三つの文化の根本的な違いを理解させたい。

【成績評価の方法】

- ①授業中の質問と発言を特に評価する。
- ②課題ごとに小試験を行い、折にふれて授業内容の要約を提出させる。
- ③学期の中間と学期末に試験を行う。

【教科書】

なし。

【参考文献】

加地伸行：『儒教とは何か』（中公新書）
これ以外は教室で複写を配布する。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
思想－イスラーム			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	今 澤 浩 二

【講義概要・学習目標】

混迷を深めるパレスチナ問題やイラク問題をはじめとして、イスラームは、現代の国際情勢を見る上で欠くことのできない要素となっている。イスラームについて理解することは、今や緊急の課題である。

イスラームは単に宗教にとどまらず、信者の日常生活すべてを規定する社会秩序でもある。本講では、イスラームを考える上で特に重要な項目を取り上げて解説し、イスラーム世界への理解を深めることを目的とする。

【講義計画】

1. 六信五行
2. 預言者ムハンマド
3. コーランとハディース
4. イスラーム法
5. シーア派とスンナ派
6. イスラームと政治
7. ムスリムの一生
8. ムスリムの一年
9. ムスリムと民間信仰
10. イスラームと日本

【成績評価の方法】

授業中の小テスト、学期末試験。

【教科書】

なし。

【参考文献】

東長靖『イスラームのとらえ方』（世界史リブレット15、山川出版）
小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書）

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
思想－西洋 (旧社会思想)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

「ギリシア人の知恵」と題し、ホメロスからストアのゼノンにいたるギリシアの賢人たちの言葉を紹介し、その言葉に含まれている意味を明らかにしていく。この講義はまた、西洋思想をギリシア人の目を通してreviewするといった意味をももつことになるだろう。

【講義計画】

取り上げるギリシア人は、いわゆる思想家・哲学者だけではなく、ギリシア文化の形成にかかわった多方面の人々が取り上げられる。

【成績評価の方法】

毎回の講義終了時に、当日の講義内容にかかわる小テストが行われる。双方向的授業の一環である。この積み上げが成績評価に反映される。期末のテストはそれを全体として確定するためのものである。

【教科書】

山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫

科 目 名			
思想と宗教Ⅰ－アイヌ民族とⅡ．バチラー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	小 柳 伸 顕

【講義概要・学習目標】

イギリス人宣教師 J・バチラー（1854～1944）は、英国聖公会世界宣教の一環として1877（明治10年）年に来日、以来60余年（明治、大正、昭和）、アイヌモシリ（人間の大地）でアイヌ民族のキリスト教化を試みます。当時日本政府は、アイヌモシリを北海道と名づけ、アイヌ民族を旧土人と呼んでいました。アイヌ民族は、開拓という名の「植民地政策」の嵐にさらされていました。アイヌ民族と J・バチラーとの関係をさぐる中で、イギリス人宣教師がはたした「正と負の遺産」について検討します。

【講義計画】

1. アイヌモシリと北海道開拓
 - 1－1. アイヌ民族の歴史
 - 1－2. アイヌ民族と北海道開拓
 - 1－3. 松浦武四郎とアイヌ民族
2. アイヌ民族とキリスト教徒
 - 2－1. J・バチラー
 - 2－2. バチラー八重子
 - 2－3. 向井山雄・江賀寅三
 - 2－4. 知里幸恵
 - 2－5. 渡辺 誠・三浦政治
3. アイヌ民族とキリスト教

【成績評価の方法】

出席・授業中の小レポート・期末のレポートを総合して。

【教科書】

なし。ただし、関係資料を授業で配布。

【参考文献】

- ・宮島利光『チキサニの大地』（日本キリスト教団出版局）
- ・松浦武四郎『アイヌ人物誌』（平凡社）
- ・J・バチラー『わが人生の軌跡』（北海道出版企画センター）
- ・バチラー八重子『若きウタリに』（岩波現代文庫）
- ・新谷行『増補・アイヌ民族抵抗史』（三一書房）
- ・知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』（岩波文庫）
- ・小川正人・山田伸一編集『アイヌ民族 近代の記録』（草風館）

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
思想と宗教Ⅲ－帰命礼拝と報恩感謝の構造			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	武 田 耕 道
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

イ、十方衆生のためにとて如来の法蔵あつめてぞ本願弘誓に帰せしむる大心海に帰命せよ
 ロ、清風法樹をふくときはいつつの音声いだしつつ宮商和して自然なり清浄薫を礼すべし
 ハ、無始流転の苦をすてて無上涅槃を期すること如来二種の回向の恩徳まことに謝しがたし
 ニ、安楽国をねがふひと正定聚にこそ住すなれ邪定不定聚くになし諸仏讃嘆したまへり
 「三帖和讃」の四首である。礼拝と感謝の心の意味を探究し「仏」と「私」の関係構造を諸君と共に学びたい。

【講義計画】

1. 帰命と南無の心
2. 礼拝と合掌
3. 衆生の世界
4. 如来の世界
5. 自力と他力
6. 修二会とお水取
7. 例時作法
8. 法華讃法
9. 四座講式
10. 報恩講式
11. 感謝と讃嘆の心

【成績評価の方法】

期末試験と出席状況

【教科書】

特に指定せず

【参考文献】

授業中に紹介

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
思想と宗教Ⅳ－心とは何か－哲学的考察			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	木 下 昌 巳
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

人の心とは何か？それは我々が何よりもいちばん知りたいものの一つである。近年の心理ゲームの流行や「私探し」という現象も、その関心の現れとして見なすことができるだろう。哲学においても、人間の心の本性をどうとらえるかということは、古代より多くの哲学者の中心的な関心の一つであった。今世紀になり人間の心を対象とする学問として心理学が成立し、学問的研究対象としての人間の心を哲学から奪ってしまった感があるが、哲学者たちの心に対する正面からのアプローチは、現代の行動科学的な心理学のアプローチと比べて、なお魅力的であり続ける。この講義では、プラトン、デカルト、フロイトの三人の思想家を取り上げて、彼らの心に対する見方を今日のトピックを交えながら論じていくことにする。

【講義計画】

1. 序論
2. プラトン
3. デカルト
4. フロイト
5. 現代の哲学的アプローチ

【成績評価の方法】

学期末のレポートによる。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
視聴覚教育			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

情報社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、衛星放送、ケーブル・テレビ、字幕番組、地上デジタル放送などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。

そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用および PowerPoint によるプレゼンテーション教材の企画・制作）を行う。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

- はじめに
 - 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの発達
 - 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か
 - 視聴覚教育メディアの変遷
 - 活字・印刷物の利用：テキスト、絵本、児童書など
 - テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割
 - テレビと子ども
 - 幼児教育番組
 - 字幕や手話通訳つき番組
 - コンピュータの発展と教育利用（コンピュータ実習を含む）
 - コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響
 - コンピュータの教育利用：CAI、CMI、eラーニング
 - インターネットの利用
 - コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成
 - コンピュータ利用をめぐる教育・社会的諸問題
 - 視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材制作
 - 教育目標・内容の設定および制作方法の企画
 - 資料集めおよび制作
 - 作品の発表と講評
 - 全体のまとめ
- 〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末に、制作したプレゼンテーション教材および修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房）
井上智義（編）『視聴覚メディアと教育方法』（北大路書房）
教職課程研究会（編）『教職必修 教育の方法と技術』（実教出版）
桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2005年度

版）

無藤 隆（編）『テレビと子どもの発達』（東京大学出版会）
中島義明（著）『映像の心理学—マルチメディアの基礎—』（サイエンス社）

（財）日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』
坂元昂（監）『メディア心理学入門』（学文社）

科 目 名			
実務英語 (旧商業英語)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

Globalizationの進む中で、外国人とのコミュニケーションが益々必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように我が国への訪問者へ対応だけでなく、今では同僚として、あるいは仕事の上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、商用での出張、旅行などの短期訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活をおくる日本人が珍しくない時代になってきた。

この講義では、外国人とのビジネス（社交面も含める）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語（English for business）を取り上げる。毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。また、受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

【講義計画】

1. 自己PR
2. 新聞・雑誌の英語
3. 説明書（マニュアル）・注意書きなどの読み方
4. 海外生活に必要な英語
5. 実用文の英語
6. 電子メール・手紙文
7. 履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる予定である。

【成績評価の方法】

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく6回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

【教科書】

教材はできるだけ最新のものを取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント（handout）を配布する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
実務英語 (旧商業英語)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて実社会に必要な実用英文を書くことに重点を置く。毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に望むこと。受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

【講義計画】

基礎

1. ビジネスレターとは
2. 社内メモ
3. 電子メール
4. ビジネス通信文の本体

社交通信文

1. 出張に係わる文
2. 紹介・招待
3. 祝賀と弔意
4. 社内外への通知文
5. 英文履歴書

貿易通信文

1. 取引関係の創設
2. 売買契約の成立
3. 売買契約の履行

【成績評価の方法】

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく6回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

【教科書】

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
児童サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	清 水 昭 治

【講義概要・学習目標】

この科目は、図書館における“児童サービス論”です。図書館、特に公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生までの巾広い本が準備されています。まず、この現実を学びます。少子化時代に入り、絶対数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書をささえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育がさけられる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。

【講義計画】

講義と共に、具体的に、実際に、多彩に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みきかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。

又、ビデオ・スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。

【成績評価の方法】

レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や、平常成績とで総合評価します。

【参考文献】

参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できることと思います。

科 目 名			
児童福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
- 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
- 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と児童
 - 1) 人間の成長・発達と児童
 - 2) 家族と児童
 - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
 - 1) 児童福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
 - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
 - 1) 児童福祉法
 - 2) 母子及び寡婦福祉法
 - 3) 母子保健法
 - 4) その他関連法規
- 5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 6 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備
 - 2) 福祉用具
- 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 9 児童に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【成績評価の方法】

期末試験（期間内）の結果により評価するが、出席点も加味される。

【教科書】

福祉士養成講座編集委員会（編）『社会福祉士養成講座 第4巻 児童福祉論』（第3版）中央法規出版

【参考文献】

- ・山縣文治編『子ども家庭福祉』（第2版）ミネルヴァ書房
- ・松本眞一著『児童福祉論』相川書房（1998年刊）

科 目 名			
児童文学 (旧英米の童話と童謡)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】

(1) 英米民間伝承童謡を味わう：

英米文化を理解するために、必ず知っておかねばならないのが、「聖書」と「ウィリアム・シェークスピア」の演劇と「マザー・グース」と総称的に呼ばれる英国の民間伝承童謡である。「童謡」といっても、自然発生的にできたものが多いので、子供向きでも教育的でもない。現代人から見れば、残酷であるし、猥褻でもあるし、差別的でもある。わけのわからないナンセンス・ソングもある。しかし、注意深く考察すると、歴史の中でせいいっぱい生きてきた庶民の、むきだしの心が見える。映画や、ポップソングや、コマーシャルや新聞の見出しなどに、また文学作品などに、いかにマザー・グースが使われていることか！

(2) 児童文学の政治性を考える：

19世紀のオルコットの『若草物語』と20世紀のトルキン『指輪物語』を題材に、非政治的に見える児童文学がいかに政治的で人心操作の道具であるかについて考察する。

【講義計画】

第1回：受講についてのガイダンス

第2回～21回まで：マザー・グースから70編の歌を、指定テキストとビデオを鑑賞しながら、英国の庶民生活の慣習を知る。同時に、英語の韻の種類や、基本的な英詩の形式を学ぶ。

第22回～25回：Little Women(『若草物語』)における階級とジェンダー

第26回～29回：The Lord of the Rings(『指輪物語』)におけるイデオロギー

最終回：まとめ

【成績評価の方法】

出席と毎回のコメントペーパーと学期末試験から総合的に判断します。

【教科書】

[教科書]

安藤幸江注：『Nursery Rhymesとビデオで楽しむマザー・グース』(北星堂、1997、1800円)

★その他、適宜教材プリントを配布する。

★受講者には、70編の唄が録音されたテープが配布される。

【参考文献】

[参考文献]

北原白秋訳『まざあ・ぐうす』(角川文庫・1976)

谷川俊太郎訳『マザー・グース』全4巻(講談社文庫・1981)

平野敬一著『マザー・グースの唄』(中公新書・1972)

渡辺茂編・著『マザー・グース事典』(北星堂・1986)

藤野紀男著『英文学の中のマザー・グース』(荒竹出版・1986)

藤野紀男著『マザー・グース案内』(大修館書店・1987)

川端康雄『オーウェルのマザー・グース』(平凡社・1998)

Iona and Peter Opie, ed.,

The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes(Oxford UP, 1997)

科 目 名			
社会科学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

「社会科学」というのは、社会の中で生じる現象(問題)に何らかの説明をつけようとして生まれてきたものです。それゆえ、「社会」という非常に広い範囲に起こるさまざまなことを扱います。

ただし、私たちが生きている社会は「市場経済」といわれる社会ですから、社会の中で生じるさまざまな問題は「市場経済」とはどのような社会なのかを知ることによって理解することができます。

この講義では社会で生じる現象(問題)を、まずビデオでみてもらい、それについて「なぜ、そのような現象が生じるのか」について考えてもらいます。その後で、「市場経済」の特徴を踏まえながらそれらの問題について説明していきます。

【講義計画】

1. 「公害問題」—高度成長期になぜ公害が起こったのか

2. 「環境問題」—環境問題の新しい原因はどこにあるのか

3. 「市場経済のパワー」—市場が持つダイナミズムと世の中の変化

4. 「労働問題」—市場経済における働く人の姿

5. 「大衆消費社会」—大衆消費社会の登場と社会の変化

6. 「不況問題」—不況はなぜ発生するのか、どうすれば克服できるのか

7. 「不況と国家の変質」—国家の役割の拡大と20世紀の経済の仕組み

8. 「グローバリゼーションの進行」—世界を包み込む市場経済

9. 「NPOとNGO」—21世紀の市民の時代とは

【成績評価の方法】

秋学期末の試験の成績とレポートによって評価する。

この講義ではビデオ鑑賞と講義を1回ごとに繰り返します。ビデオの内容について課題を設定して、翌週にレポートを提出してもらいます。このレポートは加点要素として考慮します。つまり、レポートを提出しないからといって試験の点数がマイナスされることはありません。ただし、レポートをきちんと出すことを勧めます。

【教科書】

用いない

【参考文献】

授業内で適宜指示する

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	北 川 紀 男

【講義概要・学習目標】

この講義は、はじめて社会学を学ぼうとする人々に、基礎的な知識を提供することを目的としている。まず、社会学とはどのような学問であるかを、その問題意識、研究対象、研究方法を概説することから始める。その上に立って、家族、地域社会（都市と農村）、職場（会社、労働、組織）などの具体的な日常生活を考察する。ついで、激動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題と、社会調査やフィールド・ワークなどの社会学の研究手法について考察する。

社会学は、方法としての社会学(Soziologie als Methode)とも呼ばれ、他の社会科学や人文科学にも有効であり、大いに利用されている。従って、社会学は、経済学、経営学、法学、文学を学ぶ者にとって有用であり、真摯に受講して欲しい。

【講義計画】

- ①社会学って何だろう～その成立の経緯～
- ②社会学の研究対象
- ③社会学的な考え方
- ④家族
- ⑤農村
- ⑥都市
- ⑦職場
- ⑧組織
- ⑨労働
- ⑩社会変動
- ⑪社会調査・フィールドワーク
- ⑫社会問題

【成績評価の方法】

主に、期末テストに基づいて評価するが、出席状況も加味する。また、学習状況を見てレポートを課すこともある。

【教科書】

秋元・石川・羽田・袖井著『社会学入門（新版）』1999年（有斐閣新書）。

【参考文献】

北川紀男著『文化社会学研究』2004年（八千代出版）
その他の参考文献については、その都度指示する。

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	鈴 木 富 久

【講義概要・学習目標】

「社会学」は19世紀に生まれて以来今日まで、多様な方法論的立場から多様な再定義、再構成が試みられ、20世紀において質量ともにめざましい発展を遂げてきた。そのため、今日「社会学」と言っても、そこには方法論的立場を異にする多様な「社会学」の流れが存在している。そこで本講義は、まず、相次いで登場し現代社会学の基礎をつくりあげてきた主な諸潮流について、その展開を明らかにし、理論と方法の面から社会学への理解と関心の喚起に努めたい。その上で、後半においては、日本社会の現実をとりあげ、それを「企業社会」とその危機・再編過程として把握する視点から、その全体構造と社会諸領域の問題状況を明らかにする。以上を通じて社会学とは何かに答え、現実分析の用具としての社会学の理論の役割や問題・課題等についても考えたい。

【講義計画】

序. 社会学の視点：「社会」と「世間」

第I部 社会学の展開

- § 1. コント：実証主義社会学
- § 2. マルクス：史的唯物論
- § 3. ウェーバー：方法論的個人主義
- § 4. デュルケーム：方法論的集合主義
- § 5. ミード：象徴的相互作用論
- § 6. グラムシ：人間・国家・知識人諸概念の拡大
- § 7. パーソンズ：社会システム論
- § 8. むすび：社会と個人

第II部 日本社会の現状と問題

社会の量と質／人口諸構成／支配構造／労働／社会保障／家族・ジェンダー／犯罪・治安／教育／メディア／社会運動／在日外国人／国際関係／他

【成績評価の方法】

主として試験の成績による。
但し、期間中に適宜、小試験を実施することがある。

【教科書】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社
松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』（全4巻）大月書店
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣
古典・基本文献、その他は講義中に紹介する。

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4	宮 本 孝 二

【講義概要・学習目標】

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この共通教養科目の社会学は、このように広範な対象領域をもつ社会学が蓄積してきた知識の中から、世界市民の教養にふさわしい知識を精選し、パラドックス（逆説）という社会学的分析の視点によってそれらの知識を整理し、わかりやすく解説することによって、教養としての社会学的知識と社会学的分析の基本的視点を習得してもらうことを目的としている。

まず、社会学の歴史と現在を概観した上で、社会学的分析の視点としてのパラドックスの意義と効用を説明し、次に、社会学の広範な対象領域から人間存在、人間関係、集団、逸脱、家族、科学技術、教育、文化、経済、権力、運動、変動（近代化）を選択し、それらに蓄積された社会学的知識の中に見られるパラドックスの構成を順次明らかにしていく。この講義によって、社会と文化についての豊富な知識と、社会生活にも有用なパラドックスの視点を獲得できよう。

【講義計画】

1. 社会学の歴史と現在
2. 社会学的分析とパラドックスという視点
3. パラドックスの諸類型
4. 人間存在のパラドックス
5. 人間関係のパラドックス
6. 集団のパラドックス
7. 逸脱のパラドックス
8. 家族と愛情のパラドックス
9. 科学と技術のパラドックス
10. 教育と文化のパラドックス
11. 経済のパラドックス
12. 権力のパラドックス
13. 運動のパラドックス
14. 近代化のパラドックス

以上の内容を、「まとめと補足」を含めて順次約25回で講義する

【成績評価の方法】

期末テストの成績によって評価する。ただし、希望者は講義内容で関心をもったテーマについて独自に調べて作成した自由提出レポートを、随時直接提出することができる（内容次第で加点する）。

【教科書】

森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学：パワーアップ版』（新曜社、1998年）

【参考文献】

その都度、適宜指示する。

科 目 名			
社会学基礎講義			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	鈴 木 富 久

【講義概要・学習目標】

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間と社会」に関する社会学の視点を出発点にして、人間の社会化、行為と社会規範、組織と集団、階級・国家・市民社会、等々の基礎概念を講じ、社会学の歴史にもふれる。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。

学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨む必要がある。

【講義計画】

序. 社会学の視点：人間と社会

第I部. 基礎概念

- § 1. 人間の社会化
- § 2. 行為と社会規範
- § 3. 組織と集団
- § 4. 階級・国家・市民社会
- § 5. 社会学の歴史

第II部. 世界社会学の視野と現代日本社会

社会の量と質／人口諸構成／支配構造／労働／社会保障／家族・ジェンダー／犯罪・治安／教育／メディア／社会運動／在日外国人／国際関係／他

【成績評価の方法】

（１）試験成績、（２）レポート成績（ビデオ感想文等）、（３）出席点、等を総合して評価する。

【教科書】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全4巻、大月書店
松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣
（その他、古典や基本文献などは、講義中に紹介する）

科 目 名			
社会学基礎講義			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	中 村 秀 之

【講義概要・学習目標】

本講義は社会学的思考のレッスンの場としてデザインされています。前半は準備運動として、「社会」、「個人」、「近代」、「恋愛」など、いずれも明治になってから西洋の言葉を翻訳するために造られた基本的な言葉を、その原語が西洋社会で持っている意味や関連する伝統的日本語と比較することで、私たちの社会認識の問題点を考察します。言い換えると、社会学の入り口において、私たちが社会学を学ぶ際に直面する独特の困難をしっかりと自覚しておこうというわけです。そして後半で、いよいよ社会学の世界に入っていきます。ここでは、社会学や隣接領域から、基本的な概念、命題、学説を選んで、その社会学的発想のポイントを解説していきます。このツアーによって、社会学的な問題の立て方やアプローチの方法を概観し、発展的な学習に取り組むための基礎力を身につけてください。

【講義計画】

以下のような項目を予定していますが、第1回の授業で詳しく説明します。社会学とはどのような学問か。「社会」と「世間」。「個人」と「社会」。「恋愛」と「恋」。「権利」と「自由」。「近代」の学としての社会学。「文化」と人間。「動機の語彙」。「ダブル・バインド」。「自我の社会性」。「儀礼的無関心」。「準拠集団」。「アノミー」。「文化装置」。「予言の自己成就」と「意図せざる結果」。「生権力」。「社会的構築」と「言説」。その他。

【成績評価の方法】

出席、小テスト、学期末試験によって総合的に評価します。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

授業中に適宜指示ないし紹介します。

科 目 名			
社会学基礎講義			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4	宮 本 孝 二

【講義概要・学習目標】

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この社会学基礎講義では、これから社会学を本格的に勉強する社会学部1年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。

まず、どのような社会現象にも存在する人間（パーソナリティと行為）と社会関係（相互行為、地位・役割）を把握する視点を提示した上で、家族、地域社会、職場、組織集団などの基本的な社会生活の場、政治や経済や文化等の社会領域、不平等問題や環境問題や犯罪問題などの社会問題について、基本となる情報と分析視点・方法を紹介する。問題解決と意味解釈という2大課題に向けて、社会学的分析能力の基礎を養成したい。

【講義計画】

1. 社会学とは何か：社会学の歴史と現在
2. パーソナリティと社会化
3. 行為と相互行為：社会の基本構成
4. 家族：現代家族の変容と課題
5. 地域社会：コミュニティの諸相
6. 職場と組織集団：組織論の展開
7. 階級・階層：人々の分類と不平等
8. 経済：産業化、グローバル化、情報化
9. 政治：パワーとコンフリクト
10. 教育：学校教育の機能と逆機能
11. 科学技術：リスク社会の成立
12. 宗教：世俗化と脱世俗化
13. 逸脱：価値規範と犯罪・非行
14. 文化の諸相：意味解釈の社会学

以上の内容を、「まとめと補足」を含めて順次約25回で講義する

【成績評価の方法】

期末テストの成績に、出席点数とレポート点数を加味して総合的に評価する。

【教科書】

倉橋重史・丸山哲央編『社会学の視点 行為から構造へ』（ミネルヴァ書房、1987年）

【参考文献】

その都度、適宜指示する。

科 目 名			
社会学基礎講義			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4	鈴 木 富 久

【講義概要・学習目標】

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間と社会」に関する社会学の視点を出発点にして、人間の社会化、行為と社会規範、組織と集団、階級・国家・市民社会、等々の基礎概念を講じ、社会学の歴史にもふれる。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

【講義計画】

序、社会学の視点：人間と社会

第I部、基礎概念

§ 1. 人間の社会化

§ 2. 行為と社会規範

§ 3. 組織と集団

§ 4. 階級・国家・市民社会

§ 5. 社会学の歴史

第II部、世界社会学の視野と現代日本社会

社会の量と質／人口諸構成／支配構造／労働／社会保障／家族・ジェンダー／犯罪・治安／教育／メディア／社会運動／在日外国人／国際関係／他

【成績評価の方法】

(1) 試験成績、(2) レポート成績（ビデオ感想文等）、(3) 出席点、等を総合して評価する。

【教科書】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書

見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書

宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店

ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店

ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）

渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全4巻、大月書店

松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社

浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣

（その他、古典や基本文献などは、講義中に紹介する）

科 目 名			
社会学原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	宮 本 孝 二

【講義概要・学習目標】

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

【講義計画】

1 社会学原論とは何か

2 人間の特性：意味づけと資源動員

3 社会の形成：人間社会と現代社会

4 相互行為の4つの側面

5 コミュニケーションの社会理論

6 サンクションの社会理論

7 エクスチェンジの社会理論

8 コンフリクトの社会理論

9 構造という視点

10 変動という視点

11 近代化と現代社会論

12 社会理論の諸相：現代の社会理論家たち

以上の内容を、順次約25回で講義する

【成績評価の方法】

期末試験によって評価する。ただし、その都度指示する自由提出レポートで若干の加点を行う。

【教科書】

宮本孝二『ギデنزの社会理論』（1998年、八千代出版）

社会学原論と現代社会論の可能性を探究しているアンソニー・ギデنزの社会理論の全体像を解説したもの。

【参考文献】

その都度、適宜指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SS生対象外

科 目 名			
社会学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	竹 内 真 澄

【講義概要・学習目標】

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を市民社会に焦点を当てて分析する学問である。社会学は世界資本主義とともに発展してきた。社会学は、18,19世紀に「北」（先進国）側の近代化とその再編過程で生まれた。20世紀になると欧と米を中心に社会学が制度化され、日本もここに組み込まれていった。この過程で欧米および日本の近代化の特質に対応した学問が発展した。その一方で冷戦期には「南」やジェンダーの視点も学問内部へ送り込まれ、社会学の多様化がすすんだ。さて21世紀には、世界は再び流動化しはじめた。「北」の「豊かな社会」は南北問題とグローバル化の影響で「収縮」し、かつての安定性を失いつつある。社会学は、良かれ悪しかれ、社会問題への反応形態である。自称社会学者だけでなく、非職業的社会学者もまじえて、世界資本主義の衝撃が社会学にどのような影響を与え、学問はこれにいかにか挑戦したかを考える。

【講義計画】

- (1) 18世紀ヨーロッパの社会科学
- (2) 19世紀社会学の原型
- (3) 福沢諭吉と日本近代化
- (4) 20世紀初頭の社会と個人
- (5) 戦争国家と福祉国家
- (6) アメリカ・プラグマティズム
- (7) 戦時下日本の抵抗と市民社会概念
- (8) 戦後日本と社会学
- (9) 冷戦期と社会学
- (10) 近代化と技術支配への挑戦
- (11) アメリカ社会学と黒人問題
- (12) 近代化と学校の病理
- (13) 「私」イデオロギーと個人の可能性
- (14) 近代家族の二つのイメージ
- (15) 福祉国家と「社会的ヨーロッパ」
- (16) 反福祉国家とネオ・リベラリズム
- (17) ジェンダーと失業者
- (18) 南北問題と世界システム論
- (19) 現代世界と社会権
- (20) 9・11以降の民主主義論
- (21) 北欧型社会とアメリカ型社会
- (22) 21世紀の新しい社会理論

【成績評価の方法】

年度末試験で評価するが、授業の進行次第でレポートを課す場合がある。

【参考文献】

竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
 竹内真澄、鈴木富久他著『人間再生の社会理論』創風社
 内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書
 ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科 目 名			
社会学特講－釜ヶ崎と人権			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	小 柳 伸 顕

【講義概要・学習目標】

大阪の寄せ場釜ヶ崎（行政名あいりん地区）は、日本社会の縮図とも言えます。1903年第5回内国勧業博覧会のため、スラム長町（現在の日本橋電器屋街周辺）から強制移住させられた人々によって出来た町です。以来100年を越えました。戦前は貧しい人々の地域（スラム）として、戦後は日雇労働者の町として、近年は高齢者、ホームレスの人々の町として存在し続けています。100年の歴史をたどる中で、地域に住む人々の労働や生活がどのように保障されてきたか、事件や裁判、また担当者の経験を通し、検証します。

【講義計画】

- I. スラムの形成
 1. 強制移住－第5回内国勧業博覧会
 2. 米一揆と釜ヶ崎（1918）
- II. スラムから寄せ場（日雇労働者の町）へ
 1. 1961年暴動－日雇労働者かて人間や！
 2. あいりん地区対策
 3. 裁判から見えて来る寄せ場釜ヶ崎
 - 3－1. 労働運動と裁判
 - 3－2. 救急医療とMさん裁判
 - 3－3. 路上からの強制排除
 - 3－4. 居住保護拒否
- III. 寄せ場と「ホームレス特措法」

【成績評価の方法】

期末テストと授業中の小レポートと出席

【教科書】

特になし。資料を授業ごとに準備します。

【参考文献】

- ・釜ヶ崎資料センター編『釜ヶ崎－歴史と現在』（三一書房）
- ・寄せ場学会編『寄せ場文献精読306選』（れんが書房新社）
- ・ありむら潜『ホームレス問題入門・カマやんの野塾』（かもがわ出版）
- ・E・ストローム『喜望の町 釜ヶ崎に生きて20年』（日本キリスト教団出版）
- ・山岡強一『山谷ーやられたらやりかえせ』（現代企画室）
- ・平井正治『無縁声声ー日本資本主義残酷史』藤原書店

科 目 名			
社会学特講－日本映画Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	ラウール セルバンテス Raoul Cervantes

【講義概要・学習目標】

Japanese Film I: This semester we will study primarily technical aspects of film including cinematography, scene composition, editing and sound. Using this knowledge, we will analyze the more classic Japanese films including "Ikiru", "Tokyo Story", and "Rashomon".

【講義計画】

Ikiru: Camera work, angles, types of shots, lighting
Tokyo Story: scene composition, acting
Rashomon: editing, sound, story composition

【成績評価の方法】

Grading will be based on class participation and homework.

【教科書】

No Text required

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
社会学特講－日本映画Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	ラウール セルバンテス Raoul Cervantes

【講義概要・学習目標】

Japanese Film II: During this semester we will primarily study more theoretical aspects of film including semiotic analysis and cultural theory. Also, we will analyze more contemporary films including "Unagi", "Shall We Dance?", and "The Ring".

【講義計画】

Unagi: representation of psychological states through film
Shall We Dance?: Film and society, creating gender
The Ring: Creating horror, the horror of technology

【成績評価の方法】

Grading will be based on class participation and homework.

【教科書】

No text required

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
社会科・公民科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	飯 島 敏 文

【講義概要・学習目標】

教員免許状の取得、さらに教職への動機付けを図るためには、特に社会科及び公民科授業を中心とした学校教育への理解が不可欠です。

本講義では、社会科及び公民科という教科の特徴と意義、ならびに授業実践上の諸課題を考察し、教科に対する十分な理解に基づいた学習指導案の作成・授業実践の方法についての知識と技能を高めることを目標とします。

【講義計画】

本講義は通年の開講科目ですが、前期・後期には下記のような取り運びをいたします。

<前期>

社会科・公民科の成立及び教科の特徴と意義の理解

- 1) 社会認識に求められるもの
- 2) 社会科成立以前の教科の歴史
- 3) 社会科の成立
- 4) 成立期社会科の特徴
- 5) 成立期社会科のカリキュラム
- 6) 成立期社会科の授業実践
- 7) 社会科の歴史
- 8) 公民科の成立
- 9) 公民科の特徴
- 10) 公民科のカリキュラム

<後期>

社会科・公民科の授業計画と授業実践

- 1) 学習指導案の意義
- 2) 授業における教材の価値
- 3) 授業における学習活動
- 4) 学習評価の方法
- 5) 学習指導案の作成

※上記シラバスは1～2時間で1項目をこなしていきます。ただし、後期においては中学校社会科もしくは高等学校社会科の学習指導案の立案を行うため、実践的な講義を行います。受講生の皆さんには学習指導案を実際に作っていただき、よりよい授業実践のためにどのような学習指導案を立案すべきかを具体的に解説致します。

世の中のあらゆる出来事を対象とするのが、社会科・公民科授業です。あらゆる社会事象を授業のレベルへと還元して考察することのできる力を養うことは、教員免許のみではなく社会生活において極めて有効なアプローチの方法です。生徒たちが楽しんで取り組めるような社会科授業をいかにして作り上げるか、皆さんと共に考えていきたいと思います。

【成績評価の方法】

出席状況、受講状況、小レポートの内容、期末試験の内容を総合的に評価して行います。

【教科書】

- 『中学校学習指導要領』
- 『中学校学習指導要領解説 社会編』
- 『高等学校学習指導要領』
- 『高等学校学習指導要領解説 公民編』

【参考文献】

講義中にその都度紹介します。

科 目 名			
社会科・公民科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。その中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。日本は経済低迷の最中で、国民は漠とした不安の中にいる。また、地球の幾つかの地域では紛争中であり、日本もそれには無関係ではられない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員の立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の目的と役割、教育課程の変遷、教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、模擬授業などを取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

1. はじめに＝講義概要など
2. ～3. どんな社会に生きてるのか
4. 教員の現状
5. ～6. 国旗・国歌問題と社会科・公民科教育
7. ～8. 戦後の社会科・公民科教育
9. 社会科・公民科教育と社会認識・態度
10. ～12. 社会科指導要領の内容と授業
13. 公民科の目標
14. 公民の概念と公民科教育
15. ～17. 公民科指導要領の内容と授業
18. ～19. 模擬授業の準備と学習指導案の作成
20. ～24. 模擬授業による授業研究
25. まとめ
26. テスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2／3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
社会科・地歴科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

学校教育現場では、いじめ・不登校・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況のなかで、中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業はどのようにあるべきか。

単なる知識や技能の伝達にとどまらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、解説をすることにする。

【講義計画】

1. 学校における教科教育 陶冶と訓育
2. 社会科・地理歴史科の目標
3. 社会科・地理歴史科のカリキュラム構成
4. 教育実習と授業実践
5. 授業指導案の作成と成績評価
6. 社会科・地理歴史科と人権学習
7. 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育

【成績評価の方法】

指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートとして提出する。このことを単位認定の条件とする。

【教科書】

文部科学省『中学学習指導要領解説 社会編』大阪書籍
佐伯真人・渋谷文隆・原田智仁『改定 高等学校学習指導要領の展開 地理歴史科編』明治図書

【参考文献】

井原政純『社会科・地歴科・公民科基礎論』多賀出版
永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書

科 目 名			
社会科・地歴科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	山 崎 充 彦

【講義概要・学習目標】

地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらおう。

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、模擬授業を中心とした演習形式とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じるかもしれない。その点、留意の上、登録履修されたい。

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

【講義計画】

開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、毎回一人に模擬授業を行ってもらおう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料（教科書その他のコピーなど）を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。→次回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。
5. 当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを当日ないしは、翌週に提出する。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

【成績評価の方法】

模擬授業の担当は、単位認定のための絶対的前提条件である。

学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、出席回数、これらにより総合的に評価する。

模擬授業の担当日に正当な理由無く無断欠席した者は、その時点で「不可」とする。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を口頭で報告したりレポート・論文にまとめたりするなどの基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の4つの項目である。

- ① テーマの発見 : 社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。現実の中に問題を発見する方法がまず学ばねばならない。
- ② 情報収集 : 特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における参与観察やインタビューやインターネットなどもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する法について学ぶ。
- ③ 情報解説 : 収集された多種多様な情報は解説され整理されねばならない。たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。
- ④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成 :
解説された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されねばならない。ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることなどを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での4年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解説・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目には違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称 : 社会学科基礎演習
対 象 : 社会学部社会学科1回生
形 式 : ゼミナール
定 員 : 30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担 当 者	研 究 テ ー マ	ペ ー ジ
0 1	上田 修	みんなで考える日本社会の問題	183
0 2	上田 修	みんなで考える日本社会の問題	183
0 3	過 放	日本におけるエスニック文化	183
0 4	過 放	日本におけるエスニック文化	183
0 5	北川 紀男	人口問題について	184
0 6	清水 由文	「食」の社会学入門	184
0 7	竹中 英紀	社会階層と社会集団の社会学	185
0 8	中村 秀之	文化研究の基礎	185
0 9	原田 達	基礎能力の獲得	186
1 0	松永 俊男	科学と社会	186

「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担 当 者	ペ ー ジ
0 1	大 野 順 子	187
0 2	捧 堅 二	187
0 3	清 水 夏 樹	188
0 4	藤 澤 隆 史	188
0 5	山 内 乾 史	189
0 6	渡 部 美穂子	189
0 7	畠 中 宗 一	190
0 8	安 達 正 嗣	190
0 9	安 達 正 嗣	190

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	上 田 修
02	通期	4	

【講義概要・学習目標】

この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心に任せるが、採り上げられた問題・・・例えば、校則・いじめ・学力低下に典型される教育問題、家族の変容、ニート問題に見られる若者の就職問題・・・が社会学的にいかにかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスを通して考える。

【講義計画】

- 1 班の構成
 - ①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化(班構成)をおこない、
 - ②文 献・資料の調査方法、
 - ③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
- 2 第1次班別報告

若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から1度に1テーマずつ報告を受け、小グループ(3～4グループ)に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。
- 3 第2次班別報告

第1次班別報告が一巡した後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編成し(どのようにおこなうかは演習参加者の希望を聞いた上で決める)、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって、徐々にではあれ、多人数のなかででも発言できる力をつけていく。
- 5 レポートの提出

演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

【成績評価の方法】

- ①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合的に勘案して評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

その都度、指示する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	過 放
04	通期	4	

【講義概要・学習目標】

サブタイトル：日本におけるエスニック文化
わたくしたちは日常の暮らしのなかで、食文化からさまざまな商品、ブランドあるいはファッション、言葉などにいたるまで外国との交流や外国文化の影響を受けている。また町で世界各地から来ている外国人にたびたび出会う機会もあるだろう。この大阪においてもきっとそのようなエスニックな事象を見出したり、体験したりすることがあると考えられる。今年度の演習は、このような日本におけるエスニック文化を観察し考える場である。そのための基本的な作業として、問題の提起、資料の収集と学習、レジュメの作成、発表の仕方、現地調査（またはインタビュー）及びレポートの書き方などを実際に行って日本におけるエスニック文化を明らかにしたい。

【講義計画】

- ＜春学期＞
- ・パソコン・図書館の使い方、文献検索の方法
 - ・各自の問題関心の明確化
 - ・文献の読み方
 - ・レジュメの作り方
 - ・報告と討論の仕方
 - ・社会観察・調査の方法
 - ・夏休みのレポートの課題

＜秋学期＞

- ・夏休みのレポートの報告と討論
- ・テキストの発表と討論
- ・最終レポートの報告

【成績評価の方法】

出席状況、討論、レポートなどにより総合的に評価する。

【教科書】

未定

【参考文献】

授業時に随時提示をする。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	北 川 紀 男

【講義概要・学習目標】

演習の目標は、社会学を学ぶための基礎要件である、社会について「語る」「聴く」「観察する」「読む」「書く」能力を身に付けることにある。

そのために、先ずいま生きている社会に積極的な目を向けることが第一であるが、この当たり前のことがなかなかできないのである。そこで、社会の基礎資源である人間、つまり「人口問題」をいとぐちにして、社会について「語る」「聴く」「観察する」「読む」「書く」を実践し、社会学を学ぶための最低限の素養を身に付けてもらいたい。

【講義計画】

春学期は、先ず人の話を「聴く」こと、社会について「語る」ことから始める。話題のテーマは「人口問題」である。その資料としては、新聞やテレビのニュース、さらには書物や各自の日常経験などさまざまなものが考えられる。

春学期の演習を踏まえて、夏期休暇中に「人口問題」について情報を収集し、そこでの観察結果をレポートとして提出させる。秋学期は、このレポートに基づいて、各自に報告させ、その際の質疑応答を踏まえて、レポート（報告書）にまとめる。

従って、夏期休暇中の課題は重要であり、その如何が秋学期の演習の効果を左右するので注意して欲しい。

【成績評価の方法】

演習中の質疑応答、レポートなどを参考に総合的に判定する。なお、演習科目であるから、出席状況も加味する。

【教科書】

演習に必要な資料は、時間ごとに配付資料として用意する。

【参考文献】

参考文献は、必要に応じてその都度指示する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	清 水 由 文

【講義概要・学習目標】

1970年以降食の近代化により、ファースト・フードやファミレスなどの外食化がわれわれの食生活で当たり前になっています。輸入されたファースト・フードとしてマクドナルドがあるとすれば、日本から輸出したものに回転寿司があげられます。そこで本演習ではそのような回転寿司に焦点をあて、それがどのように始まり、現状はどのようにになっているのか、その社会的背景はなにか、外国の回転寿司はどのようにになっているのかを探りたいと思います。そのようなテーマを問うことにより日本の社会の特徴を考えたいのです。

本演習は基本的にそのようなテーマを理解するために① いかに関情報を収集するか、② どういう点が問題か、③ それをいかに調べるか、④ いかにまとめていくか、⑤ それをいかに報告するか、という作業を通して進めていきたい。

【講義計画】

- （春学期）
1. 図書館での資料収集、
 2. We bで資料収集、
 3. パソコンでワード、エクセルの習得、
 4. 報告レジュメの作り方、
 5. 社会調査の方法、
 6. 報告の仕方

- （秋学期）
1. グループ単位でのテキストの報告および討論、
 2. 回転寿司体験、
 3. レポートの書き方、
 4. 各自のテーマによる最終レポートの作成。

【成績評価の方法】

出席、授業での報告、レポートで総合評価する。

【教科書】

（春学期）野村一夫『社会学の作法・初級編』、文化書房博文社
（秋学期）渡辺米英『回転寿司の経済学』、ベスト新書、2002年（予定）

【参考文献】

松本紘宇『お寿司、地球を廻る』、光文社新書、2002年
加藤裕子『寿司、ブリーズ』、集英社新書、2002年

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この演習には三つの目標がある。

第一に、ノートのとり方、本の読み方、レポートの書き方、口頭発表の仕方など、大学で必要とされる《学習・研究法の基礎》を学ぶこと。

第二に、社会学のさまざまな専門分野をこれから学んでいく前提として、《現代日本の社会構造》のいったい何が（どのように）問題であるのか理解を深めること。

第三に、大学という社会制度の中で、《学びの共同体》としての小集団を組織すること。

これら三つの目標を達成するために、まず『よくわかる学びの技法』をテキストとして、各自の時間割や授業の進行状況に合わせた学習指導を行なう。また『希望格差社会』の各章について、要約・発表・討論のサイクルをくり返す。さらに随時、コミュニケーション・ゲームや共同のフィールドワークによって、受講生同士の親睦をはかりたい。

※全回出席を原則とする。

【講義計画】

演習に盛り込む予定の項目は以下のとおり。実際の授業の順序を示すものではないので注意すること。

- ・自己紹介・他者発見ゲーム、名簿づくり
- ・授業の聞き方・ノートのとり方
- ・図書館・情報センターオリエンテーション
- ・本の読み方・要約の仕方
- ・本の内容を模造紙の上で図解してみる
- ・フィールドワークとKJ法——社会現象を図解でとらえる
- ・図解から、レポートの文章を構築する
- ・レジュメ（ハンドアウト）によるプレゼンテーション
- ・PowerPoint, Web によるプレゼンテーション
- ・グループ討論

【成績評価の方法】

毎回のレスポンス・カード、課題の達成状況、レポート（数回程度）の内容を総合して評価する。

【教科書】

- ・田中共子編『よくわかる学びの技法』（ミネルヴァ書房、2200円）
 - ・山田昌弘『希望格差社会』（筑摩書房、1900円）
- ※2冊とも購入すること。負担が大きいうように感じるかもしれないが、大学生なら、このくらいの値段の本はどしどし買って読破してほしい。

【参考文献】

- ・森下伸也『社会学がわかる事典』（日本実業出版社）
 - ・パオロ・マッツァリーノ『反社会学講座』（イースト・プレス）
 - ・上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』（太郎次郎社）
- ※ほか随時、紹介する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4	中 村 秀 之

【講義概要・学習目標】

大学で学ぶための基礎力——〈読む〉〈調べる〉〈書く〉〈話す〉〈聴く〉そしてもちろん〈自分で考える〉力を鍛える演習です。春学期は、まず図書館の利用法や、必要に応じて基本的なコンピュータ・ソフトの使い方から始め、次に比較社会論のテキストを使って、①文章の読み方と内容のまとめ方、②口頭発表の仕方、③発表の聴き方と討論の仕方、④社会学的な発想法などを学びます。秋学期は、発展学習として、テキストで取り上げられている諸問題に関連したテーマを各自で設定し、文献調査と考察を行い、その成果を口頭発表とレポート作成という形でまとめます。

【講義計画】

春学期：知の技法と作法の基本を身につける。テキストの輪読と討論。テキストの内容 序「グローバル時代を生きる」

- 1 「教育（ニッポンは学歴社会か？）」
- 2 「宗教（洗脳社会の謎）」
- 3 「ジェンダー（主婦する・しないの選択）」
- 4 「芸術（アートはビジネスになりうるか）」
- 5 「企業（異文化理解の落とし穴）」
- 6 「エスニシティ（私の異文化体験・福祉）の現場から」
- 7 「価値観（フェアって何？）」

秋学期：発展学習として個別研究の発表と討論。学年末レポートの作成。

【成績評価の方法】

出席、演習への参加の度合い、課題（レポートなど）の達成度によって評価します。詳細は第1回授業のガイダンスで説明します。

【教科書】

荻谷剛彦（編）『比較社会・入門 グローバル時代の〈教養〉』（有斐閣選書、1997年）

【参考文献】

授業中にそのつど指示する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4	原 田 達

【講義概要・学習目標】

演習のテーマは＜社会＞と出会うこと。解るようで解らないのが＜社会＞、出会っているのにであっていることに気づかないのが＜社会＞、この奇妙なく＜社会＞というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。

そのためにまず、大学で社会学を学ぶの最低条件としての素養、「語る」「聴く」「観察する」「書く」能力を養いたい（もうひとつ重要な要件である「読む」力までは、残念ながら手がまわらない）。

＜社会＞との出会い・気づきと、社会学を学ぶための最低条件の獲得が、この演習の目標となる。

【講義計画】

まず「語る」ことから始めたい。そして人の話を「聴く」。簡単そうに見えるこのことが、じつは新入生にはできない。「自己提示（プレゼンテーション）」の仕方を身につける。テーマは「私の家族」。これが春学期の計画。

夏休み、この演習では宿題を課す。本を読むよりも前に、各自が街に出る。街に出て、街と人、ファッションや人びとの行動・立ち居振る舞いなどを「観察」する。それを「記録」する。

秋学期、この観察記録をもとにして報告をし、レポートを「書く」。最終的には、このレポートを自己紹介とともにhtml文書にしてweb上で公開する。

【成績評価の方法】

総合的に判断する。なによりも重要なものは、積極性です。

とりわけ夏休みの宿題（観察）はハードです。ここで壁にぶつかるでしょう。しかし、その壁を突破したとき、きみたちは社会学を学ぶ学生になります。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

この演習では、科学と社会の関係を材料にして、大学で学ぶための基本を身に付けてもらう。すなわち、調べる、読む、聴く、考える、話す、書く、といった基礎技術を実地に体験して学習し、講義の聴き方、ノートの採り方、レポートの書き方、試験の受け方などを会得してもらう。

大学では高校や予備校と違って、決まり切った「問い」や「答え」があるわけではない。自分で「問い」を見つけ、自分でそれに答えようとする姿勢が大切である。この演習で、諸君が自ら問題を発見し、解決する習慣を養ってもらいたい。

【講義計画】

1. 作文演習
2. 図書館の利用
3. 資料収集演習
4. レポート執筆演習
5. プレゼンテーション演習
6. 討論演習

【成績評価の方法】

出席を最も重視する。遅刻は厳禁。教室で行われるさまざまな活動に、積極的に取り組む意欲が、評価の対象となる。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

本講義ではNew Internationalistという雑誌（英文雑誌）を読み、地球社会、現代社会が抱えるグローバル、かつローカルな問題について、主体的に考える力を養うとともに、ゼミナール形式という特徴を生かし、それらの諸問題について受講生全員で議論することを通して、地球の抱える課題に対して、自分なりの意見をまとめ上げ、地球規模的課題に対する関心を高める。英文資料を読むことが多いため、受講希望者にはある程度の英文読解力・理解力（例：英検1～2級程度）が必要である。また英文読解能力を身に付けたい者、将来英語圏の教育機関への留学を希望するものの積極的参加も期待する。

【講義計画】

毎回異なるトピック・記事を「New Internationalist」（主な使用テキスト）から選び出し、事前に各自予習し、その内容を把握することを前提に、授業ではトピックに関する基本説明（全体理解）を経て、ディスカッションを中心にすすめられる。よって、本科目を受講するものは第一回目の講義から授業を行うので必ず出席すること。

【成績評価の方法】

1. 出席（遅刻は欠席とみなす）
 2. 毎時の予習
 3. 課題・レポート
 4. 毎授業内での発言、意見などによる授業に対する貢献度
 5. 試験（予定）
- 以上により、総合的に評価する。

【教科書】

New Internationalist（英文/日本語）
※購入する必要はない。毎時使用部分を印刷配布する。

【参考文献】

その都度、テーマに沿ったものを副読本として紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

マックス・ヴェーバーを政治社会学を中心に勉強する。ヴェーバーはむずかしいが、基本的な部分にしばって、しっかりと押さえてもらう。

講義と読書案内とビデオ鑑賞をおこなう。
レポートを10本書くのが目標である。

レポートを書くために本を読んでもらう。
この授業はそのための支援でしかない。

【講義計画】

- 1 ヴェーバー
- 2 支配の社会学
- 3 モスカ、パレート、ミヘルスとヴェーバー
- 4 ミルズと「パワー・エリート」
- 5 カリスマの支配
- 6 天皇制－天皇は「世襲カリスマ」か？
- 7 網野善彦と隆慶一郎と藤沢周平
- 8 ヒットラーとナチズム
- 9 政治＝権力・権力・権力
- 10 マキャヴェッリからヴェーバーへ
- 11 「ヘル」「行政幹部」「被治者」
- 12 政党、「世界観政党」「パトロネージ政党」

以上は一部である。基本的にヴェーバーを中心にやるので、以上も直接間接にヴェーバーに関係している。

【成績評価の方法】

- 1 0回程度のレポート。受講者の努力の評価。

【教科書】

可能な限り最初の授業からもってきてほしい。
ヴェーバー『職業としての政治』（岩波文庫） 420円
安藤英治『マックス・ウェーバー』（講談社学術文庫） 1418円

【参考文献】

講義の際、随時、印刷物によって、多数の参考文献を紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえつつ、以下各自関心項目を設定してもらう（例＝現代音楽、オカルト、宗教ブーム、漫画・アニメドラマ、メディア文化等）。

ー6,70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動態と諸相をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

【講義計画】

前期

大衆から分衆社会へ 青年世代の今昔と「聖」「俗」「遊」価値フレーム 高度情報化ともの・言葉・メッセージ。

後期

高度消費社会と記号論、バーチャルイメージとゲーム感覚、同じくインターネット空間、Self reference

【教科書】

未定

【参考文献】

講義中に随時紹介する

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	藤 澤 隆 史

【講義概要・学習目標】

社会心理学に関する文献・論文を読み、その理論と研究技法を学ぶ。人間の社会的行動について、その法則性を探り、理解を深める。

【講義計画】

各グループの人数が同数になるように学生を割り振って、授業を進めていく予定です。授業中に配布する資料や指示するテキストや文献を参考にしながら、報告者のレポート、教員の説明、学生の討議などで授業を進めます。社会心理学についての専門用語を調べて発表したり、社会心理学において主要とされている研究の中から興味のあるものをまとめて発表するなどです。また、後期の後半は簡単な調査をして、まとめて発表を行なう予定です。

【成績評価の方法】

出席を含む平常点と、レポートにより評価する。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	山 内 乾 史

【講義概要・学習目標】

この文献演習では、教育の役割、学校の役割、学力低下を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会的なものの方の見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。

【講義計画】

読むことを考えている文献は、荻谷剛彦『なぜ教育論争は不毛なのかー学力論争を超えてー』（中公ラクレ、2003年）、中井浩一編『論争・学力崩壊2003』（中公ラクレ、2003年）、廣田照幸『教育には何ができないかー教育神話の解体と再生の試みー』（春秋社、2003年）山内・原『学力論争とは何だったのか』（ミネルヴァ書房、2004年）、長尾他『「学力低下」批判』（アドバンテージ・サーバー、2002年）、別冊宝島『小学校がたいへん！ー教師達が語る「学力低下問題」の本当の事情ー』（宝島社、2001年）、荻谷・志水編『学力の社会学』（岩波書店、2004年）など。必要に応じて指示します。

【成績評価の方法】

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

【教科書】

必要に応じて指示します。中心となるのは、荻谷・志水編『学力の社会学』と山内・原『学力論争とは何だったのか』です。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	渡 部 美穂子

【講義概要・学習目標】

社会心理学とは、人びとが相互についてどのように考え、影響を及ぼし合い、関係し合っているかについての科学研究である。この演習では、米国社会心理学の泰斗エリオット・アロンソンによるテキストの講読をつうじて、社会的状況における人間の行動のパターンやその動機を学ぶことを目的とする。

この演習によって、同調、マスメディア、社会的認知、自己、攻撃、偏見、好意と愛といった広範な社会心理現象を科学的に解釈する力を養うことが期待される。

【講義計画】

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1. 社会心理学とは何か
2. 同調
3. マスコミ、宣伝、説得
4. 社会的認知
5. 自己正当化
6. 人間の攻撃
7. 偏見
8. 好意、愛、対人的感受性
9. 科学としての社会心理学

【成績評価の方法】

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

【教科書】

E. アロンソン（古畑和孝監訳、岡隆・亀田達也訳）『ザ・ソーシャル・アニマル —— 人間行動の社会心理学的研究』サイエンス社、1994年

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	畠 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

臨床心理学は、学際的な志向によって豊富化される。学際的な一つの認識として「生物－心理－社会」がある。病理現象にアプローチするとき、医学は生物学的認識を、心理学は心理学的認識を、社会学は社会学的認識を、それぞれ動員し、病理現象を説明する。それらは、蛸壺における認識であり、人間と社会を全体としてとらえる認識からはほど遠い。
「生物－心理－社会」の相互性のなかで病理現象を理解することが、バランスのよい理解につながる。そのような認識を身につけることが本演習の目的である。

【講義計画】

前期は、さまざまな家庭問題を「自立と甘えのせみぎあい」という視点から考察した論考を、学生の報告と討論という形式で積み重ねていく。後期は、「子どものウェルビーイング」をキーワードにした文献を選択し、前期と同様な学習を行う。

【成績評価の方法】

出席、レジュメ、討論、レポートの総合評価

【教科書】

畠中宗一編（2002）『自立と甘えの社会学』世界思想社

【参考文献】

関連する文献は、適宜紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08 09	通期 通期	4 4	安 達 正 嗣

【講義概要・学習目標】

本演習は、家族や高齢社会について学習すると同時に、受講生自身が報告することを通じて報告の仕方ならびに報告レジュメの書き方について学習することを目的とするものである。

本演習の内容としては、前後期ともに、受講生が教科書の分担当章を報告して、受講生全員で議論をする。担当者は、受講生の報告について、指導をおこないながら、その論文の内容について解説もおこなう。

【講義計画】

前期：受講生が家族についての論文を担当して報告し、受講生全員で議論して家族理論や現代家族の現状についての理解を深める。

後期：受講生が高齢社会についての論文を担当して報告し、受講生全員で議論して高齢者や高齢化について検討しながら現在ならびに近未来の高齢社会のあり方について考える。

受講生数にもよるが、前後期ともに、最低限それぞれ1回は報告することになっている。

【成績評価の方法】

出席について（3回以上の欠席は単位認定を不可とする。また報告者でありながら、報告当日に欠席した場合も単位認定を不可とする。）

レポートについて（前後期に各1回レポートを提出すること。詳細については演習中に指示する。）

成績評価の区分 （出席50％・レポート50％で評価する）

【教科書】

前期：中川淳編『家族論を学ぶ人のために』 世界思想社

後期：田尾雅夫・西村周三・藤田綾子編著『超高齢社会と向き合う』 名古屋大学出版会
演習中は、必ず持参すること。

【参考文献】

下記の文献は、演習中にもふれるが、社会学部の学生が大学生活をおくるうえで、有益となるであろうものである。必ずしも購入する必要はないが、本演習だけでなく、これからのゼミ報告や卒論作成にも役立つと思われるので、提示しておく。

高橋三郎・新田光子『大学生入門』世界思想社。

野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社。

科 目 名			
社会言語学 (旧言語文化特講－社会言語学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	大 原 始 子

【講義概要・学習目標】

日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々に姿を変えて存在し、日々変化している。また、話し手は、所属する文化や社会の慣習にそって、「状況」、「相手」、「話題」にふさわしい「ことば」を選択している。このように、言語、変種、スタイルについて、誰が、どこで、どのように使い分けるかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。

本講義では、前期は、多様な言語社会の形態を知ることに関心を置き、マクロ的な側面を学習していく。後期は、言語の多様性と語用論的分析などミクロ的な研究を紹介しながら進めていく。専門的な内容に入るため、言語学、英語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。

【講義計画】

<前期>

言語と方言；国語、公用語、共通語、標準語
「日本における第二公用語化」
アメリカ、オーストラリア、アジア、アフリカの社会言語学的言語状況
バイリンガルとダイグロシア
ピジンとクレオール
言語とアイデンティティ
言語計画

<後期>

言語変種の地域差、世代差、男女差、階層差
日本語アクセントの平板化
ら抜き言葉
強調の原理
ボライトネス理論と敬意表現
借用語

【成績評価の方法】

前期、後期終了時に、論述試験を行う。講義中に出すレポートの成績も評価に加える。

【教科書】

『社会言語学への招待』 田中春美 著(ミネルヴァ書房)

【参考文献】

その都度、プリントして配布、または指示する。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI・J生は対象外
J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
社会思想史 (旧社会思想史概説)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	坂 昌 樹

【講義概要・学習目標】

社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。

学習の重点は、われわれの社会制度のもとにある西欧思想、ならびに日本人の考え方との違いを確認することにあります。思想といえは抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。

【講義計画】

- I. 導入：社会思想とはなにか
 - II. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観
 - III. 個人主義の確立：キリスト教による個人の析出、マキアヴェッリ、ルター
 - IV. 近代国家の構想：ホッブズ、ロック、ルソー、(カント)
 - V. 市民社会の秩序：スミス、(J. S. ミル)
 - VI. (近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想)
- 講義の進捗状況によっては、上記（ ）つきの思想家や思想を省略することがあります。

【成績評価の方法】

学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。

【教科書】

指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。

【参考文献】

必要があれば、講義中に指示します。
連絡先：(研究室) アンデレ館 7 階725室
(tel) 0725-54-3131 (内線) 3725
(Email) ban@andrew.ac.jp
面談：在室中は、随時可能です。

科 目 名			
社会心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	藤 澤 隆 史

【講義概要・学習目標】

我々は、他者の中で、集団の中で、そして社会の中で生きている。本講義では、我々が社会や他者を、そして自己をいかに認識しているのかという社会的認知過程、我々が社会の中で他者といかに関わっているかという対人的相互作用過程、集団や社会を形成することにより、いかなる現象が生じるかという集団過程という3つの問題を社会心理学の知見をもとに概説し、我々が社会の中でいかに行動しているのかを考察する。

【講義計画】

1. 社会心理学の課題と方法
2. 自己
3. 対人認知
4. 社会的認知
5. 対人関係の発展と解消
6. 対人的コミュニケーション
7. 態度形成と変容
8. 社会的影響過程
9. 集団過程
10. 社会的交換
11. 攻撃と援助
12. 空間的行動
13. 集合行動
14. 人間関係と健康
15. 女性と男性

【成績評価の方法】

主に定期試験により評価する。

【教科書】

藤原武弘、高橋超編「チャートで知る社会心理学」福村出版

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
社会心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	渡 部 美穂子

【講義概要・学習目標】

私たちは他の人や集団、文化の影響を受け、また私たちの行動のあり方いかんが、他の人びとの行動にも影響を及ぼしたりしている。社会心理学とは、このように人間の行動を他の人との関わりのなかで、また、文化的営みとの関連のなかで、科学的に分析しようとする学問である。

講義では、われわれの日常生活に深く関わりのある社会心理学上のテーマを取り上げ、とくに若者に焦点を据えて人間関係、集団、文化などの問題について述べたいと思う。受講生諸君は日常生活への洞察を得て、自己や他者、異文化をみる感性を養い、社会的適応へのヒントを得ることができるものと期待している。これが本講義の目標でもある。

この目標を実現するために、前半では、社会的環境における基本的な心理過程を中心に引き上げ、後半では、他者・集団・文化との関わりにおける心理過程について考え、最後に社会現象に触れることにしたい。

【講義計画】

予定している授業内容は以下のとおりである。なお、社会心理学は机上の空論ではなく、現象とデータが重視される科学的・実証的な学問である。このために、視覚的材料（スライド・ビデオ・OHP）を活用する。

1. イントロダクション
 - (1) 社会心理学とは？
 - (2) 社会心理学の方法
2. 社会的思考
 - (3) 自己
 - (4) 社会的認知
 - (5) 態度の形成と変容
3. 社会的影響
 - (6) 同調行動
 - (7) 説得
 - (8) 集団のダイナミックス
4. 社会的関係
 - (9) 攻撃と援助
 - (10) 恋愛
 - (11) 対人的コミュニケーション
 - (12) 集合行動
 - (13) 宗教と社会
 - (14) 健康心理学

【成績評価の方法】

時折小テストを行ったり、講義中にアンケート調査を実施したりして、それを講義の材料とする。要するに出席が重視される。

【教科書】

追って指示する。

【参考文献】

高木修編 『社会心理学への招待』（有斐閣）
 大橋正夫・佐々木薫編 『社会心理学を学ぶ』（有斐閣）
 池上知子・遠藤由美 『グラフィック 社会心理学』（サイエンス社）
 金児曉嗣編 『心理学事始め』（有斐閣）

科 目 名			
社会政策総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	大 西 祥 恵

【講義概要・学習目標】
意識しようとしまいと、この社会で生きていくにあたって、仕事と生活のバランスをとることが大切になってきます。このバランスは、事前に比率が決まっているようなものではなく、皆さんが、どのようにすれば自分らしい人生を歩めるのかを模索し続けた結果として出てくるものだと思います。

しかし、自分に適したライフ・スタイルを築くにあたっては、働くうえで欠かせない法規制がどのような考え方のもとに成立しているのか、また生活するうえで欠かせない制度がどのような仕組みを有しているのかなどについても知っておく必要があるでしょう。

本講義では、雇用、生活それぞれの場面で活用される、社会の制度について学んでいきます。

【講義計画】
春学期は、雇用に関する事柄を中心として、労働基準、労働市場、企業社会などについて学びます。秋学期は、生活に関する事柄を中心として、年金制度、医療制度、公的扶助などについて学びます。

【成績評価の方法】
試験、授業中に行う小テスト、および出席態度。

【教科書】
玉井金五・大森真紀編著『社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2000年（2100円）。

【参考文献】
講義中に指示することがあります。

科 目 名			
社会調査A (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	過 放

【講義概要・学習目標】
この科目では、『社会調査入門』をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】
1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎（1）概念・操作の定義・変数
6. 測定と分析の基礎（2）仮説の構成
7. 測定と分析の基礎（3）記述と説明
8. 量的調査（1）種類と方法
9. 量的調査（2）サンプリングの論理
10. 量的調査（3）質問文の作成
11. 量的調査（4）調査票調査の実際
12. 質的調査（1）聴き取り調査
13. 質的調査（2）ドキュメント分析
14. 質的調査（3）参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】
出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】
大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】
・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
社会調査A (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。（詳細については最初の授業で説明する）

【教科書】

大谷ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査A (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	春学期 秋学期	2 2	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎 (1) 概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎 (2) 仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎 (3) 記述と説明
- 8 量的調査 (1) 種類と方法
- 9 量的調査 (2) サンプリングの論理
- 10 量的調査 (3) 質問文の作成
- 11 量的調査 (4) 調査票調査の実際
- 12 質的調査 (1) 聴き取り調査
- 13 質的調査 (2) ドキュメント分析
- 14 質的調査 (3) 参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況、レポートなどの提出物、筆記試験の成績を総合して評価する。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

- ・荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社）
- ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』（文春新書）
- ・パオロ・マツァリーノ『反社会学講座』（イースト・プレス）ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
社会調査B (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	過 放

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むしろ、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使つての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプルングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- ・白谷秀一・朴相権『実践はじめての社会調査』自治体研究社
 - ・林知己夫編『社会調査ハンドブック』朝倉書店
 - ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会
- ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
社会調査B (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むしろ、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使つての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプルングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【教科書】

大谷ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B (旧社会調査)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

※なおグループ単位の共同作業を中心とするため、全回出席が原則。また進捗状況に応じて、授業計画は柔軟に変更する。

【成績評価の方法】

出席状況、課題の達成状況、および期末レポートの内容を総合して評価する。

【教科書】

・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房（社会調査Aと共用）

【参考文献】

- ・白谷秀一・朴相権『実践はじめての社会調査』（自治体研究社）
 - ・酒井隆『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』（日本能率協会マネジメントセンター）
 - ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』（新曜社）
- ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
社会調査実習Ⅰ (旧社会調査実習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものであり、少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析に取り組むたい。また、秋学期の「社会調査実習Ⅱ」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持つことを目標とする。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 1 実習の計画（必要な場合は実習生のグループ分け）
- 2～3 過去の調査報告書の検討 問題意識と仮説を学ぶ
- 4～6 過去の調査報告書の検討 記述統計データの読み方・まとめ方
- 7～9 過去の調査報告書の検討 相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 研究論文の検討 統計データの社会的分析法
- 11～12 研究論文の検討 多変量解析の基礎
- 13～14 研究論文の検討 さまざまな計量モデルを学ぶ
- 15～16 既存データの再集計 SPSSの基礎
- 17～18 既存データの再集計 SPSSの応用
- 19～21 既存データの再集計 SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 問題意識と仮説
- 23～24 データ分析と仮説検証 統計的検定
- 25～26 データ分析と仮説検証 因果関係のエラボレーション
- 27～28 データ分析と仮説検証 多変量解析の実際
- 29～30 データ分析と仮説検証 分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末レポート（400字詰め10枚程度）によって評価する。

【教科書】

大谷ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に開講されるものであり、ひきつづき、少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っていだきたい。授業の内容は、(1)問題意識と仮説の絞り込み、(2)質問文・調査票の作成、(3)調査票の配布と回収、(4)データの整理・集計・分析、(5)分析結果のプレゼンテーション、報告書の執筆といういくつかの段階に分かれる。

なお、「社会調査実習Ⅰ」と、この「実習Ⅱ」では、実質上、卒業論文に匹敵する水準の論文（400字詰め30枚程度以上）を、1年に満たない期間で書き上げることが要求される。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

- 1 実習の計画（報告書作成までの手順）
- 2～4 問題意識と仮説 問題意識の絞り込み、対象者・地域の選定
- 5～7 問題意識と仮説 仮説の構成
- 8～9 問題意識と仮説 変数の操作化
- 10～11 質問文と調査票 質問文と選択肢のワーディング
- 12～13 質問文と調査票 調査票のレイアウト
- 14 質問文と調査票 プリテストと調査票の完成
- 15 社会調査の実施過程 調査対象者のサンプリング
- 16 社会調査の実施過程 調査票の配布と回収、面接技法
- 17～18 調査データの整理と集計 調査票のエディティングとコーディング
- 19 調査データの整理と集計 エラーチェックとデータ・クリーニング
- 20～21 調査データの整理と集計 単純集計とクロス集計
- 22～24 報告書の執筆 学術論文の構成法
- 25～27 報告書の執筆 注と参考文献
- 28～30 報告書の執筆 図表の用い方

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め30枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査特講－質的調査法 (旧社会学特講－社会調査方法論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	過 放

【講義概要・学習目標】

今年度の講義では、質的調査法の種類と実例、特に聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心にして、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。調査の企画、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成など調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいは小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込む方法をとる。したがって授業への出席のみならず、授業時間外にも調査作業や、グループの連携性・協調性が不可欠の必要条件である。

【講義計画】

1. 質的調査法に関する概説
2. 聞き取り調査とその特徴
3. 聞き取り調査の技法
4. 聞き取り調査のデータ分析
5. インタビュー法
6. ライフヒストリーの分析
7. フィールドワークの技法
8. 参与観察法とは
9. 参与観察法の進め方
10. 参与観察法のデータ収集と分析
11. さまざまなドキュメント分析
12. ドキュメント分析の調査企画
13. ドキュメント分析の技法
14. ドキュメント分析のデータ収集と分析
15. 事例研究

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- ・石川淳志ほか『見えないものを見る力』八千代出版
- ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
- ・中野卓ほか『ライフヒストリーの社会学』弘文堂
- ・原純輔『社会調査演習』東京大学出版会
- ・その他、授業時に適宜指示をする。

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法 (旧社会学特講－データ解析演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を超えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第三変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会

科 目 名			
社会病理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	畠 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

社会病理学は、社会問題や社会病理現象を対象としそれらの問題解決を指向する。これまでは、時代診断、文化診断といったアセスメントに比重が置かれてきた。アセスメントは、実証されていないという意味で一つの仮説でしかない。近年、社会病理学の射程を、アセスメント、介入計画の作成、実行、エバリュエーションといった介入プロセスによって問題を解決していく方法が主張され始めている。本講義では、介入プロセスを志向する社会病理学を、臨床社会学として措定し、その具体的展開を素描する。

【講義計画】

- 1 社会病理学への臨床社会学の貢献
- 2 臨床社会学の歴史
- 3 臨床社会学の方法
- 4 摂食障害
- 5 アルコール問題
- 6 子ども虐待
- 7 老人虐待
- 8 犯罪
- 9 D・V
- 10 臨床社会学とフィールド研究
- 11 専門性の問題
- 13 臨床社会学と隣接科学

【成績評価の方法】

試験、レポート、出席の総合評価

【教科書】

畠中宗一・清水新二・広瀬卓爾編（2004）『社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学：臨床と社会学的研究のブリッジング』学文社

【参考文献】

畠中宗一編（2000）『臨床社会学の展開』（「現代のエスプリ」393）至文堂
大村英昭・野口裕二編（2000）『臨床社会学のすすめ』有斐閣
畠中宗一著（2000）『家族臨床の社会学』世界思想社

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	－	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	－	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への出席を重視し、課題への取り組み状況、レポート等の提出および課題達成状況等々による総合的評価を行う。

【教科書】

対人援助実践研究会編
「対人援助ワークブック」久美出版

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	－	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

たばたせい いち『さっちゃんのまほうのて』偕成社、1985年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	－	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。